

令和5年度(2023年度) 日野市環境活動情報レポート



日 野 市

日野市気候市民会議画像(表紙の絵)

日野市気候市民会議は、市のカーボンニュートラルを実現するため、令和 5 年 8 月より開催されました。

会議の参加者は、年代と性別の構成が日野市の構成に近づくようにランダムに抽出された 4,500 人のうち、40 人が選定されました。

参加者は有識者や企業などから多角的な情報提供を受け、全 5 回の会議による熟議のもと行政、市民、事業者それぞれが取り組むべき気候変動対策をとりまとめ、令和 6 年 2 月に提言書として完成させています。詳細は環境白書の気候変動分野及び提言書をご覧ください。

令和 5 年度の主要事業である、日野市気候市民会議の最終回（第 5 回）集合写真と提言提出セレモニーの写真を、今年の表紙として選定いたしました。

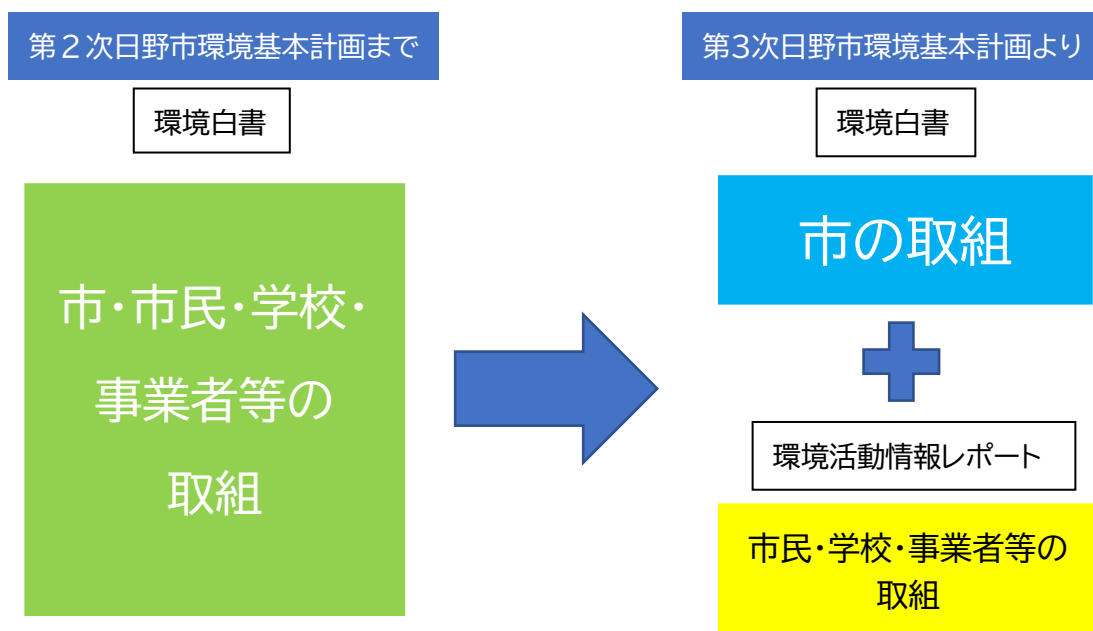
日野市環境活動情報レポートの位置付け

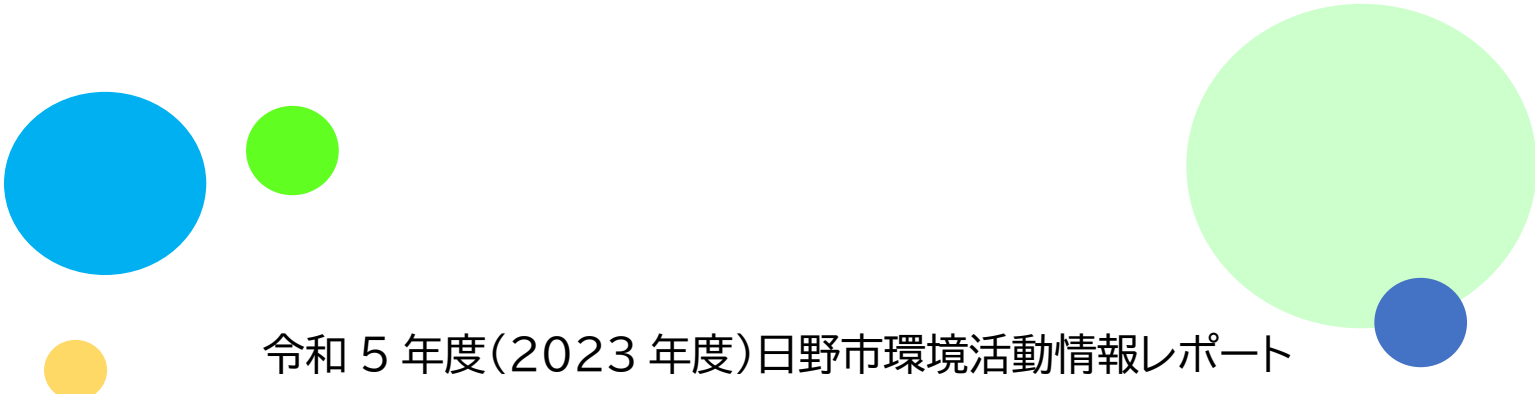
本書にまとめた市民、市民・行政との協働、学校等及び事業者による環境への取組は、令和4(2022)年度までは、第1次及び第2次日野市環境基本計画に基づき、取組主体を市・市民・事業者として環境白書にて紹介していました。日野市環境審議会より「市民のコメントについては、年次報告書という環境白書の性質を考慮すると、環境白書以外のものに記載することが望ましい」という意見をいただいたことから、令和5年度より、市民、学校及び事業者など様々な主体による環境への取組の紹介等については、「環境白書」とは別に、「日野市環境活動情報レポート」として発行することといたしました。

日野市環境活動情報レポートは、「今まで環境活動を知らなかった人々へ、団体やその活動について知ってもらう」ことを目的に今後、毎年公表してまいります。

※日野市環境基本計画は、日野市環境基本条例(平成7(1995)年10月5日施行 条例第18号)第9条に基づき策定するもので、平成11(1999)年に第1次日野市環境基本計画を策定、2度の改定を経て、現在は第3次日野市環境基本計画(令和4(2022)年4月1日改定)が施行されています。

※日野市環境基本計画に基づき実施される環境の保全等に係る取組は、日野市環境基本条例第18条に基づき「日野市環境白書」として、その結果を公表しています。





令和 5 年度(2023 年度)日野市環境活動情報レポート

— 目 次 —

・日野市環境活動情報レポートの位置付け

1	1 章 市民における環境への取組状況	1
2	2 章 幼稚園・保育園における環境への取組状況	32
3	3 章 小学校・中学校における環境への取組状況	37
4	4 章 高校における環境への取組状況	42
5	5 章 大学における環境への取組状況	43
6	6 章 事業者における環境への取組状況	45





1 章 市民における環境への取組状況

この章では、日野市で様々な環境活動に取り組んでいる市民(市民団体含む)の活動内容等について紹介します。

団体一覧

団体名称(50 音順)	掲載ページ
NPO法人環境教育ネットワーク	2,3
倉沢里山を愛する会	4,5
認定NPO法人子どもへのまなざし	6,7
市民環境大学OB会	8,9
真堂が谷戸蛭の会	10,11
雑木林お助けネットワーク	12
滝合水辺の楽校「浅川っ子の会」	13,14
一般社団法人TUKURU	15
南丘雑木林を愛する会	16,17
東豊田緑湧会	18,19
ひの市民リサイクルショップ回転市場	20
日野団塊世代広場	21
日野の自然を守る会	22,23
日野の水車活用プロジェクト	24
ひの・まちの生ごみを考える会	25,26
日野みどりの推進委員会	27
程久保川を考える会	28
みずとくらす・ひの	29
谷仲山緑地を守る会	30,31

団 体 名	NPO 法人環境教育ネットワーク(旧:比留間塾環境プロジェクト)		
代表者名	比留間 文彦		
連絡方法	TEL:042-584-0900 FAX:042-581-9909 E-mail:hiruma.b@tbf.t-com.ne.jp		
団体案内 (目的・趣旨)	当法人は日野市を中心に活動し、地域の素晴らしい潜在的な様々な資源を掘り起こし、それらを顕在化させる事を一義的な目的とする。そして、その顕在化した人的及び物理的資源を活性化させる事で、障害者や高齢者、健常者など全ての地域住民が協働し、活力ある思い遣り溢れるコミュニティを形成する事を最終的な目的として活動している。		
設立年	2002 年		
主な活動内容	○2023 年 4 月～7 月(全 14 回講義) 古文書に残る公害事例から現代の環境問題に関する講義 参加人数:(大学生対象)延べ 3,000 人 ○2023 年 4 月 29 日～2024 年 3 月 23 日(全 12 回) 児童障害者通所施設において身近な科学現象の 「見える化」実験を実施 参加人数:(児童・生徒、介護者及び保護者)延べ 357 人 ○2023 年 6 月 8 日～24 日 カワセミハウス環境パネル展:パネルを出展 ○2023 年 4 月 23 日～2024 年 3 月 23 日(全 9 回) ファラデーの著書「ロウソクの科学」を学ぶ基礎講座と 手引書作成 参加人数:(弊法人会員)延べ60人 ○2023 年 10 月 14 日 オクトーバーフェスト出展 基礎的科学実験3種類実施(大気圧で缶を潰す、逆さまにしてもこぼれない水、トルネード) 参加人数:約1,000人		
主なフィールド	大学、大学院、児童障害者通所施設、社会福祉法人、公共施設など		
活 動 日	基礎的科学実験(児童障害者通所施設): 月に一度、土曜日 定期勉強会(日野市立カワセミハウス): 毎月第4日曜日		
会 員 数	10 名		
募 集	-		
そ の 他	理事長が毎日 UP するアメーバブログ:日々是臥薪嘗胆(ひびこれがしんしょうたん)		
団体の課題 (複数回答可)	☒ 人員不足 ☐ 会員の高齢化 ☐ 活動資金不足 ☐ 団体の周知 ☐ その他()		

自由記載	【その他の活動】 2023 年 11 月 12 日 立川市総合防災訓練～立川災害ボランティアネットのサポート 2023 年 11 月 26 日 コープみらいフェスタ～科学ステージ実施 基礎的科学実験5種類実施(大気圧で缶を潰す、逆さまにしてもこぼれない水、透明人間の原理、界面活性剤の原理、皆で二酸化炭素を見よう) 参加人数:約6,000人 2023 年 12 月 23 日 コープみらい～NPO 法人キッズドア～みらい塾 基礎的科学実験3種類実施(逆さまにしてもこぼれない水、透明人間の原理、界面活性剤の力量) 参加人数:70人
------	--

団 体 名	倉沢里山を愛する会
代表者名	田村はる子
連絡方法	事務局 田村はる子 TEL:042-592-5859 E-mail:kurasawasatoyama@gmail.com
団体案内 (目的・趣旨)	日野市百草の倉沢地域で一帯の里山的な景観を永く残し、市民の手でエコ循環を実践しながら、緑地の維持・管理を通じて雑木林や農地の緑に親しみ、同時に会員並びに地域のコミュニケーションを深めていくことを目的として、2000 年(平成 12 年)から活動。
設立年	2000 年
主な活動内容	1.下草刈り、落ち葉掃き、樹木の手入れ等、雑木林を中心とする緑地の基本的・日常的な維持・管理作業。 2.里山内の市民農園(アリスの丘ファーム1・2・3)の運営・管理及び雑木林の腐葉土をはじめ、おから、牛糞、馬糞等地域内でのエコ循環の実践。 3.里山内の希少植物の保護育成・調査。 4.会の活動の地域住民への広報、参加の呼びかけ。 5.百草・倉沢地区の里山全体の保全のための市民や行政への働きかけ。 6.他の市民団体との情報並びに意見交換及び協働活動等。 7.外部の諸団体・学校等からの見学・体験参加等、出前授業の受け入れ。 8.上記活動を通じて、ボランティア参加市民の交流・交歓のためのイベントの実施、コミュニケーションの提供、高齢層の社会参加機会の提供。 (定例活動後は、ランチを通じて交流を深めている。)
主なフィールド	日野市百草の倉沢地区の公有緑地(数か所)を拠点として活動。
活 動 日	月に2回から 4 回
会 員 数	家族単位で 120 家族、登録会員 200 名
募 集	会の趣旨に賛同して下さる方なら、どなたでも何時からでも参加できます。
そ の 他	
団体の課題 (複数回答可)	☐ 人員不足 ☒ 会員の高齢化 ☐ 活動資金不足 ☐ 団体の周知 ☐ その他()
自由記載	次ページに記載

自由記載	(設立の経緯) 2000年5月、約100名が参加して倉沢里山散策会を実施。民有緑地を散策・見学し、奇跡的に残されている豊かな自然の状況とその貴重さを改めて強く認識する機会となった。これをきっかけとして、以後、数名の有志にて、雑木林の下草刈り、野草の保護、落ち葉掃き等の活動を積み上げた。1年間の活動実績を踏まえ、2001年5月、活動参加者に加えて活動への理解・支援者を募り「倉沢里山を愛する会」(任意団体)を組織し、現在に至る。最近の活動の参加数は、コンスタントに40名以上にも達している。本活動は、地元地権者のひとりが、日野市内に残された最後の里山として、また都心に最も近い里山として極めて貴重な存在となっている里山が、相続によって乱開発されてしまうことを何とか防ぎたい、との思いから地域住民に呼びかけ、地権者と市民、さらに行政の3者によるパートナーシップを担ったもので、あまり例を見ない新しい形の運動と言える。2001年に実際に発生した相続にあたり、地権者(相続人)の寄付等と市民ボランティア団体の緑地管理支援により、里山がほとんど姿を変えずに残されるという極めて大きな成果を実現することに繋がった。本会の存在と活動の実績が、この緑地公共化のための不可欠の前提条件となった。 (本会の意義) 本会の事業目的は、近隣の市民による里山の緑地保全のための活動であるが、単なる労働奉仕的な側面だけでなく、更にイベントの都度、昼食を食べながら交流をする場を作るなど、市民による緑地保全や農作業を通じて地域住民相互の新しいコミュニケーションの場を提供しており、高齢化社会の進展に合わせ、地域の新たな社会参加の場としての意義も担っている。一方、学生や若い層の参加もあり、世代を超えたコミュニケーションができる貴重な機会も提供しており、今後会員を拡大していく中で、こうした高齢者の積極的な社会参加と同時に、若い層にも参加を呼び掛けて、より幅の広い市民活動として展開していきたい。  
-------------	---

団 体 名	認定 NPO 法人子どもへのまなざし
代表者名	中川 ひろみ
連絡方法	TEL:042-843-1282(月～木 10 時～17 時) E-mail:info@manazashi2009.sakura.ne.jp
団体案内 (目的・趣旨)	私たちは、子どもたちが地域のあたたかいまなざしの中で育ち、豊かな子ども時代が保障される社会の実現を目指しています。あなたの『子ども時代』を思い出してください。「誰と、どこで、何をして」遊んでいましたか？子どもにとっては『あそび』は生きることそのものです。こんな時だからこそ、子どもにとっての『あそび』の価値を発信し、「子ども時代のあそびを保障する」大人の役割について考えていきたいと思っています。
設立年	2009 年
主な活動内容	①プレーパーク「なかだの森であそぼう！」の開催:毎週金曜日と第二・第三土曜日 (年間 70 日程度) ②フリースペース「たけのこ」の運営:毎週月～木 9 時～16 時 30 分 定員 20 名程度 ③野外保育「まめのめ」(認可外保育施設) 月～金 9 時～17 時(延長保育あり) 定員 30 名程度 ④子どものあそびを保障する「あそべ！子どもたち」事業 対象:年中～小6 主に夏休みや冬休みに開催 ⑤仲田の森蚕糸公園等清掃管理(委託事業) 月 8 回程度 清掃業務を実施
主なフィールド	浅川、多摩川、仲田の森蚕糸公園、多摩丘陵など
活 動 日	事業によって活動日が異なります。詳しくはお問合せください。
会 員 数	正会員 72 名 応援会員 80 名
募 集	プレーパークは 0～18 歳の子どものみだけでなく、大人の方も大歓迎！遊びに来てくださいね。
そ の 他	乳幼児の親子を対象として季節の恵みや外遊びを楽しむ「野遊びの時間」を年 8 回開催しました。
団体の課題 (複数回答可)	☒ 人員不足 ☐ 会員の高齢化 ☒ 活動資金不足 ☐ 団体の周知 ☐ その他()



自由記載	フリースペース「たけのこ」は、学校に行けない(行かない) 子どものための居場所です。西平山の豊かな自然の中で、毎日のびのび過ごしています。子どもはもちろん、関わる全ての大人も支え合い、育ち合う場を目指して「子どもが主人公の居場所づくり」に取り組んでいます。そのためには、多くの皆様のご支援が必要です。どうぞよろしくお願いいたします。 ◎ホームページ、Facebook は QR コードから！ Instagram も随時更新中！  HP  Facebook
-------------	--

団 体 名	市民環境大学OB会		
代表者名	飯島利三		
連絡方法	(代行)原田 武司 E-mail:fnusaxtg@yahoo.co.jp		
団体案内 (目的・趣旨)	小倉先生の「市民環境大学講座」で学んだことを実践して生かしていこうとのコンセプトで 始まったサークル		
設立年	2012 年		
主な活動内容	◎定例会(毎月) 初期は小倉先生の著書「川と湖を見る知る探る」を輪読する勉強会 現在は末包氏が提供するレポートを中心に討論(11 月で 40 回目) ◎年 4 回「ニュースレター」発行 市内図書館(市政・中央・多摩平・高幡)で閲覧可能 ◎黒川公園周辺湧水量測定(毎月)12 年目 ◎市内放射線量測定(毎月)7 年目 ◎「身近な環境全国一斉調査」(毎年)12 年目 ◎「大気汚染測定運動」(年 2 回)8 年目		
主なフィールド	カワセミハウス		
活 動 日	毎月第三木曜日		
会 員 数	延べ 60 人以上 定例会出席者は 10 名前後		
募 集			
そ の 他			
団体の課題 (複数回答可)	☐ 人員不足 ☒ 会員の高齢化 ☐ 活動資金不足 ☐ 団体の周知 ☐ その他()		

自由記載	市民環境大学OB会の変遷「ニュースレター」より抜粋
	2009:03 市民環境大学講座第一期 開講(環境センター)
	2011:03 東日本大震災により福島原発事故で放射能飛散
	2012:01 市民環境大学OB会発足
	2012:03 放射線量測定開始 隔月
	2012:06 「身近な水環境の全国一斉調査」初参加 年1回実施 任意参加
	2014: 小倉先生著“陸水学入門「川と湖を見る知る探る」”輪読開始
	2015:03 「ニュースレター」No.1 発刊
	2015:04 「OB会フィールドワーク 黒川公園見学会」実施
	2016:07 谷仲山湧水量測定 始まる
	2016:12 大気汚染測定(NO2)に参加 年2回実施 任意参加
	2017:04 「カワセミハウス」完成 OB会の拠点も移動
	2017:04 黒川公園周辺湧水量測定 開始
	2017:04 新しいテキスト「森林飽和」輪読 開始 約1年で中断
	2017:11 「OB会 フィールドワーク 北野水再生センター見学会」実施
	2018:05 「OB会フィールドワーク 豊田用水・用水見学会」実施
	2018:07 高層マンション基礎工事における黒川清流公園の湧水に異変—新聞報道
	2019:04 OB会運営規約 作成
	2019:06 遠藤基金助成金申請受領 1回目
	2019:07 「OB会フィールドワーク 立川・国立極地研見学会」実施
	2019:10～2023:04 黒川公園周辺水質調査実施 諸般の事情により約3年半で終了
	2019:10 「OB会フィールドワーク 小平市上下水道館 見学会」実施
	2020:07 遠藤基金助成金申請受領 2回目
	2020:07 「日野の自然を守る会」助成金申請受領
	2020:07 末包氏 話題提供「3つの話題シリーズ」始まる
	2020:08 コロナ禍により「ニュースレター」発刊遅延 32・33 合併号となる
	2021:01-02 コロナによる緊急事態宣言発令により1月2月の例会中止
	2021:03 「OB会フィールドワーク 日野市クリーンセンター見学会」実施
	2022:05 「OB会フィールドワーク ミクリの郷・豊田用水・用水を歩く」実施
	2022:12 小倉先生著書「“東京湾”副題:生きものと共に見る長期的なうつりかわり」発刊
	2023:04 「OB会フィールドワーク 春の程久保川流域探訪」実施
	2023:07 OB会と日野市緑と清流課との懇談会開催
	2023:12 今後のOB会について全体会議→スリム化を推進すべきとの意見により参加上部団体見直し「みみネット」から離脱を決定
	2024:01 放射線測定方法改正→集団で実施していた測定を個人に委託

団 体 名	真堂が谷戸蛸の会
代表者名	藤田正愼
連絡方法	藤田 TEL:090-4929-7362 事務局 笹木延吉 TEL:042-642-0422
団体案内 (目的・趣旨)	日野市にわずかに生息するホタルを保全し、里山の生物多様性の復活
設立年	2008年
主な活動内容	ホタルの棲息する水路を含めた水路、池の整備(かいぼり、水草、雑草などの除去)、水路沿いの杭の整備 不耕起栽培の稲作 樹林の整備(枯れ木の伐採、枯れ枝処理、樹々周辺の草刈り) 動植物の調査、観察 ホタルの飛翔する1か月間の調査。市と共催の「ホタルの観察会」 「真堂が谷戸ハンドブック」及び「真堂が谷戸」リーフレットの制作
主なフィールド	新葉山緑地及び百草公園東緑地
活 動 日	月3回(第1日曜日、第3木曜日、第4土曜日)
会 員 数	24名
募 集	日野市在住、在勤者、真堂が谷戸近隣の住民及び「日野市雑木林ボランティア講座」の卒業生に対し、随時募集しています。
そ の 他	斜面に直径50cmほどのコナラの高木が枯れ、周辺に大きな枝を落とし危険であるため、伐採をした。
団体の課題 (複数回答可)	☒ 人員不足 ☒ 会員の高齢化 ☐ 活動資金不足 ☐ 団体の周知 ☐ その他()
自由記載	生物が生き活きと生存できる環境を構築していくことが、真堂が谷戸に課せられた使命と感じております それが会の理念であり、生物多様性につながることを思っており、今後もこれを踏まえ、活動を行って行きたいと思っています

自由記載



マユタテアカネ



イチモンジセセリ



オニヤンマ



シオヤアブ



オオアオイトトンボ



シオカラトンボ



オナガサナエ



ジャコウアゲハ



カブトムシ

団 体 名	雑木林お助けネットワーク
代表者名	羽吹 春奈(世話役)
連絡方法	E-mail:otasuke600@gmail.com
団体案内 (目的・趣旨)	「雑木林お助けネットワーク」は、講座のスキルを活かして役に立ちたいと思っている「雑木林ボランティア講座卒業生」と日野市内で緑地保全活動を行っている「既存活動団体」とを繋ぐネットワークとして発足しました。その後、卒業生の活躍の場は、既存活動団体はもちろん、新たな緑地保全活動やその他の活動にも広がって来ている現状を踏まえ、緑地保全活動に関する各種情報を発信して卒業生に活躍して貰うことを目的としています。
設立年	2019 年
主な活動内容	【2023 年度】 ・緑地保全作業 経験値アップチャレンジ企画 ・市内活動団体の作業お助け案内 ・市内緑地保全プロジェクトの案内 ・市内水と緑に関するシンポジウム案内 ・市内イベントでの協力案内 「日野市内の緑地の手入れで発生する材の有効活用の試み」 ・雑木林ボランティア講座 19 期卒業生への登録案内と団体紹介
主なフィールド	日野市内の緑地及び関連施設
活 動 日	特定の活動日は無し
会 員 数	58 名(登録メンバー)
募 集	雑木林ボランティア講座卒業生の方で登録ご希望の方はメールでご連絡ください。
そ の 他	
団体の課題 (複数回答可)	☐ 人員不足 ☐ 会員の高齢化 ☐ 活動資金不足 ☐ 団体の周知 ☒ その他(展開できる緑地情報や活動情報の不足)
自由記載	日野市「雑木林ボランティア講座卒業生」活躍の仕組み

団 体 名	滝合水辺の楽校「浅川っ子の会」
代表者名	北川千里
連絡方法	TEL:042-587-6068
団体案内 (目的・趣旨)	浅川沿いに建つ「滝合小学校」の子ども達の「川で遊びたい」という小さな願いから始まった活動が少しずつ輪を広げ、学校や保護者、子ども達、地域の方々のご協力の元、川でさまざまな遊びの体験を通して「楽しむ」そして「大切にする」気持ちが育っていく事を願って活動しています。
設立年	2006 年
主な活動内容	《年 5 回の行事を行っています(4 月に年間予定表を各家庭に配布しています)》 ●4 月⇒浅川清掃と春野菜カレー ●8 月⇒浅川で遊ぼう ●9 月または 10 月⇒染物体験 ●11 月⇒浅川清掃と焼き芋 ●2 月⇒バードウォッチングと七輪パーティー
主なフィールド	滝合小学校前の浅川～長沼橋までの間、河原、滝合小学校中庭、家庭科室にて
活 動 日	年 5 回の各月の最終日曜日(学校行事により日程変更の場合アリ)
会 員 数	スタッフ11名 + 滝合小学校生徒、家族自由参加
募 集	各家庭に年間予定表、行事の月に手紙と申込書配布
そ の 他	行事中止のお知らせについては、学校正門、西門に中止看板設置とホームページにて
団体の課題 (複数回答可)	☐ 人員不足 ☐ 会員の高齢化 ☐ 活動資金不足 ☐ 団体の周知 ☒ その他(活動場所不足・川遊びのための AED 講習機会不足)
自由記載	子ども達の笑顔が原動力！ 見ている大人もいつの間にか笑顔です いつまでも「この川で遊べるように」…子ども達の願いを大事にしていきたい

●染物体験の様子

・・「葛」を採取して染めていきます



●浅川で川遊び

・・小魚を見つけたり、川の流れを体験したり、浮いたり・・・

子ども達なりに遊びを工夫しながら楽しんでいます。

自由記載



団 体 名	一般社団法人TUKURU
代表者名	丸木英明 佐藤美千代
連絡方法	E-mail:hinotukuru@gmail.com
団体案内 (目的・趣旨)	日野市内でも少なくなっていく農地を守り、誰もが気軽に「農のある暮らし」を楽しむことができれば・・・！そんな思いから市民が集まり「農のある暮らしづくり協議会」を2018年に設立しました。勉強会を重ねながら作成し提案した計画書が、2021年5月、日野市まちづくり条例に基づき「農のある暮らしづくり計画」として決定されました。 この計画の推進組織として設立されたのが一般社団法人 TUKURU です。
設立年	2020 年
主な活動内容	市民が農のある暮らしをまちなかで作り継続するには、様々な困りごとにぶつかります。子どもたちと共に自由に農作業したいけど場所がない、場所はあるけど耕す仲間がいない、農作業を指導してくれる人がほしい、農機具がないけどどうしたらよいかわからない。たい肥を作りたいけど資材がない、お金がない、などなど、初めてスタートする人にとって壁にぶつかることばかり。一方、農地を管理している方も高齢だが後継者がいなくて困っている、信頼できる人に貸したいけどどうしたらよいかわからない・・・そんな方たちにたくさん出会ってきました。 そこで私たちは、ひとつひとつ困りごとを解決できるよう、行政・企業・団体・市民等と連携し、農ある暮らしの拠点づくりと地域内循環のしくみづくりをサポートしています。 <TUKURU がつくるもの> ①地域内循環のまちづくり ～農的活動が持続・発展する仕組みを整えます～ ②担い手づくり ～農のある暮らしを担う人材を繋ぎ、新たな農の価値を創出します～ ③農のある暮らしの拠点づくり ～農のある暮らしの活動拠点を整備します～  ①竹炭づくり  ②ワークショップの実施  ③東平山ハチドリ農園開園
主なフィールド	日野市内
活 動 日	随時
会 員 数	理事 2 名、監事1名、応援団複数名
募 集	応援団を随時募集！
そ の 他	-
団体の課題 (複数回答可)	☐ 人員不足 ☐ 会員の高齢化 ☐ 活動資金不足 ☒ 団体の周知 ☐ その他()
自由記載	詳細は WEB サイトをご覧ください！ http://tukuru.ne.jp/ 

団 体 名	南丘雑木林を愛する会
代表者名	老沼 義正
連絡方法	事務局:笹木延吉 TEL:090-6029-1811 E-mail:eisvogel311@jcom.zaq.ne.jp
団体案内 (目的・趣旨)	市民の力で雑木林を守っていくことが目的で 2005 年から市民団体と日野市の共催で「雑木林ボランティア講座」を開催してきましたが、第 3 回の講座卒業生の有志で南平丘陵公園を拠点とした「南丘雑木林を愛する会」を立ちあげる事が出来ました。明るい健全な雑木林を維持・保全し、次の世代に引き継ぐ事が会の目的です。ボランティア講座の支援は基より、他の団体への指導応援などが出来る緩やかな成熟した団体を目指しています。
設立年	2007 年
主な活動内容	「明るく健全な雑木林を次世代に」 人間の暮らしに関わりの薄くなって放置された雑木林は、僅かに 50 年前まで私たちの暮らしに、かけがえのない場所でした。雑木林は、薪や炭などの燃料になり、落ち葉は堆肥として利用され、人々はこの雑木林を維持するために約 15 年毎の萌芽更新、下草刈り、落ち葉かきなどに努めてきました。雑木林は手入れを怠ると数年で藪になり、生物多様性がなくなり、萌芽更新サイクルなどを行えば、健全な雑木林を残す事ができ、ボランティアは小さい力ですが、心通った仲間達との活動が明日に繋がります。 ①萌芽更新作業(刈払機、チェーンソーを使った活動と安全管理) ②粗朶柵工、落ち葉かき、下草刈り、腐葉土づくり ③池の管理(かい掘り、土留め工など) ④貴重植物の保護 ⑤環境学習や応援ボランティア
主なフィールド	南平丘陵公園
活 動 日	第 2 日曜日、第 4 木曜日の月 2 回午前 9 時 30 分～午後 3 時まで
会 員 数	25 名
募 集	常時
そ の 他	会費 2,000 円／年(保険代込み)
団体の課題 (複数回答可)	☐ 人員不足 ☒ 会員の高齢化 ☒ 活動資金不足 ☐ 団体の周知 ☐ その他()
自由記載	日野市とのパートナーシップ協定締結 2024 年 3 月 19 日南丘雑木林を愛する会は日野市と緑地管理・運営及び供用に関するパートナーシップ協定を結びました。南平丘陵公園を市内で残された希少生物の生育環境が維持できる樹林地として位置づけ、この自然環境を次の世代に引き継ぐ為、明るい健全な雑木林や希少生物の生育環境を維持・保全し、生物多様性に配慮した活動を進めていくものとする。

雑木林は四季折々の景観、新緑の輝き、小さな花々、小鳥のさえずりや木々のざわめきなどをもたらします。雑木林と一緒に楽しみながら穏やかな活動を楽しみましょう。

「南平丘陵公園」：多摩丘陵の地形と樹林を残す、面積約4.1ha、標高差約60m起伏に富み、四季折々楽しめる公園。

アクセス



“明るく健全な雑木林を次世代に”

人間の暮らしにかかわりの薄くなって放置されたまわっている雑木林は、わずか50年前まで、私たちの暮らしにかけがえのない大切な場所でした。

雑木林は薪や炭等の燃料になり、落ち葉は堆肥として利用され、人々はこの雑木林を維持するために約15年毎の萌芽更新や下草刈り、落ち葉かき等に長い間努めてきました。

雑木林は手入れを怠ると数年で藪になり、生物多様性がなくなります。萌芽更新サイクルなどを行えば健全な形で雑木林を残すことができ、ボランティアは小さな力ですが、心通った仲間たちとの活動が明日に繋がります。

”活動概要”

日野市雑木林ボランティア講座が2005年スタート、2007年に講座修了生が集まり、立ち上げた会です。

- ・活動場所：日野市南平丘陵公園
- ・活動内容：萌芽更新、除間伐、粗朶柵、下草刈りや野草保護など
- ・活動日：第2日曜日、第4日曜日
- ・活動時間：9時30分～15時
- ・年会費：¥2,000-（ボランティア保険込み）
- ・連絡先：代表 老沼
e-mail: ysnuma@jcom.zaq.ne.jp
事務局：笹木 090-6029-1811

なんきゅう 南丘雑木林を愛する会



日野市南平丘陵公園で活動する
雑木林ボランティア団体

私たちの合言葉、「ボランティアは人のためではなく自分の目的意識のために楽しく活動するもの」

「活動内容」

☆萌芽更新：雑木林の木々は伐採すると切株から萌芽（ひこばえの芽生え）があり、十数年周期で伐採を行えば健全な雑木林を維持することができます。

「萌芽更新サイクル」



- ☆間伐、除伐：枯損木や景観を妨げる木々を伐採
- ☆粗朶柵作り：伐採した木の用途は少なく、その場に粗朶柵を作り、土砂崩れを防ぐことができます。

☆下草刈り：林床の野草を保護しながら、鎌による手刈りや刈払機で刈取る

☆野草保護：主な自生野草を保護

アマナ・イチヤクソウ・イチリンソウ・オオバトソウ・キツネノカミソリ・キバナアキギリ・シュラン・フジバカマ（野草園・植栽）・ハンガショウ（ひょうたん池・植栽）・ヤマルリソウなど。



広場

- ☆野草園：身近な野草を保護
- ☆ひょうたん池：水溜りと水路を整備、水生生物の住処を目指す
- ☆シイタケ栽培・四ツ目垣作り

南平高校

緑会の様子



団 体 名	東豊田緑湧会	
代表者名	羽吹 春奈(2023 年度)	
連絡方法	E-mail:higashitoyodaryokuyu@gmail.com	
団体案内 (目的・趣旨)	東豊田緑地保全地域の自然環境を維持し、植生の管理・保護・観察を通じて、身近な緑地の保全保護を継続的にボランティアで行うことを目的とする。	
設立年	1997 年	
主な活動内容	2023 年度活動概要	
	2023 年 4 月～2024 年 3 月 定例活動	ササ刈り、落ち葉掻き、枯損木処理、希少種保護等
	2023 年 5 月～2024 年 3 月 東京都保全地域コーディネート事業	事業実施に伴う関係各機関との意見交換及び情報共有の上での作業計画への参画(実務も担当)
	2023 年 5 月～2024 年 3 月 市内関係各者との情報共有・協働活動等	東豊田緑地保全地域連絡会 市内各種協議会等への参加
	2023 年 10 月～12 月 東京グリーンシップ・アクション	東豊田緑地保全地域をフィールドとするボランティア団体として補助
主なフィールド	東豊田緑地保全地域	
活 動 日	毎月 第 1・第 3 土曜日	
会 員 数	16 名	
募 集	いつでも歓迎。メールでご連絡ください。	
そ の 他		
団体の課題 (複数回答可)	☐ 人員不足 ☐ 会員の高齢化 ☐ 活動資金不足 ☒ 団体の周知 ☒ その他(酷暑時期の活動方法)	

自由記載	東豊田緑湧会は「東豊田緑地保全地域」の手入れの一部を担っていますが、この保全地域を守り育んでいるのは、第一に、この保全地域を「知っていて大切に思っている」人々だと思います。 「東豊田緑地保全地域」という硬い名称を知らなくても、近くに住んでいたり、近くを歩いたり、その中で遊んだり、中央線から季節の移り変りを眺めたり、といろんな形で「知っていて大切に思っている」人々は、日野市民に限らず大勢いると思います。 もちろん一緒に活動しようと思ったださることは大歓迎ですが、そんなハードルを無理に超えなくても、「東豊田緑地保全地域」と一緒に愛しく思う心の友、私達と同じような応援団の一員になって貰えたら嬉しいです。 私達より以前から「東豊田緑地保全地域」に関与されている先輩の皆さんも、私達に昔の姿を教えてくださいたいと思われましたら、どうぞご連絡ください。お待ちしております。
------	--

団 体 名	ひの市民リサイクルショップ回転市場
代表者名	関口 裕子
連絡方法	万願寺店 TEL:042-587-1781
団体案内 (目的・趣旨)	日野市の支援のもと、市民のみなさんから無償で提供された中古衣類・雑貨品等の販売を通して「使い捨てのくらしを見直し ①物を大切にする暮らし ②ごみになる物を買わない暮らし ③ごみを出さない暮らし に変えていく呼びかけをし、それに役立つ情報の発信と実践、活動をしています。また安全で環境に負荷の少ない石けん製品の販売もしています。 売上金を店の運営・市民還元イベントなどに活用しています。
設立年	1992 年
主な活動内容	多摩都市モノレール万願寺駅前スーパーいなげや2階 開店時間・曜日:11 時~16 時/水曜日~日曜日(除く祝日) 夏季休店/年末年始休店あり ・フードバンクの受付窓口 ・日野市内中学校(2 校)の課外活動へ協力 ・実践女子大学生活科学部へ古布提供 ・2023 年 6/8(木)-24(土) カワセミハウス環境パネル展参加 ・2023 年 9/30(土) 還元イベント「地球交響曲ガイアシンフォニー」無料上映会を開催 ・2023 年 10/15(日)「まちづくり市民フェア」に参加 ・2023 年 10/28(土)「いきいき祭り」に参加(シルバー人材センター) ・2023 年 12/3(日) 着物特別販売 ・2023 年 2/10(土)「環境フェア」にパネル参加 ・2023 年 3/17(日)「マザアスマルシェ」に参加
主なフィールド	回転市場万願寺店
活 動 日	店当番日・イベント開催日・作業日など
会 員 数	16 名
募 集	活動の趣旨に賛同し一緒に活動していただける方
そ の 他	活動費 1 時間 500 円、交通費実費支給
団体の課題 (複数回答可)	☒ 人員不足 ☒ 会員の高齢化 ☒ 活動資金不足 ☒ 団体の周知 ☒ その他()
自由記載	ひの市民リサイクルショップ回転市場は、市民活動団体です。 市の支援を受け、「ごみを減らし次世代により良い環境を残すために」を目標に有償ボランティアとして活動しています。ぜひ一緒に活動しませんか！

団 体 名	日野団塊世代広場
代表者名	増永 廣幸
連絡方法	日野団塊世代広場事務所(日野市平山台健康・市民支援センター内) TEL:042-843-8723 E-mail:info@dsedai.com
団体案内 (目的・趣旨)	団塊世代をはじめとするシニア世代が培ってきた各自の経験・技術を生かして、地域に役立つ、自らも生き生き生活できることをめざし、以下の二つを実現目標としています。 ・培った経験や知識、スキルを活かし、自分たち自身が地域で活躍する。 ・培った経験や知識、スキルを活かし、地域での活躍を目指す人達の支援をする。
設立年	2007 年
	「日野団塊世代広場」は、『生きがい、働きがい、地域がい』を持って、健康で生活を楽しみながら地域づくりに貢献することを目的として活動しています。パソコン、太極拳、俳句、和裁などの教室も開催しています。 活動の一環として 2009 年から百草山での「明るい雑木林」作りに取り組んでいます。12 人で雑木林チームを編成しており、5 人は「雑木林ボランティア講座」の修了生です。活動としては、林の手入れ作業を行いながら次のような取り組みを行なっています。 ・雑木林の保全管理 (下草刈、萌芽更新、雑木林育成、作業道作り等) ・植物の貴重種の確認など現況の調査及び自然観察会の実施 ・小中学生の自然教育の場としての昆虫観察会の実施 ・竹ぼっくりの製作、イベントにて子供たちに配布を行い子供の運動能力向上に資する。 ・産業まつりやまちづくり市民フェアに出展し、日野団塊世代広場の活動のPRや手作り品等の販売
主なフィールド*	京王百草園駅から徒歩 5 分、百草園の北側に隣接した雑木林主体の仮称:百草山緑地(公有地)
活 動 日	第 2 日曜日、第 4 土曜日 9 時～15 時
会 員 数	24 人。百草山活動者 延べ 242 人/2023 年度
募 集	ホームページ http://www.dsedai.com/ “日野団塊世代広場”で検索
そ の 他	なし
団体の課題 (複数回答可)	☒ 人員不足 ☒ 会員の高齢化 ☐ 活動資金不足 ☐ 団体の周知 ☐ その他()
自由記載	竹を活用したいグループから市を通して連絡があり、「竹活用の流れ」を作る試行を開始しました。雑木林及び竹林の整備で発生する剪定枝などを可燃ごみにならないように場内処分するとともに、チップ化や炭化等により資源化し再活用する方法を、他のボランティアグループと協働で取り組んでいます。



団 体 名	日野の自然を守る会
代表者名	(会長) 山本 浩
連絡方法	事務局 〒191-0062 日野市多摩平 3-12-2 (江面方) TEL:042-583-6808 E-mail:mamorukai-info@hinonoshizen.sakura.ne.jp
団体案内 (目的・趣旨)	本会は、日野の自然を守り、市民の間に自然尊重の心を養い、その保全と復元に努力し、人間性豊かな社会の発展に寄与することを目的とする。(会則第三条 目的) 活動内容としては、本会の目的を達成するため、日野の自然を守る市民運動、調査・研究、自然保護に関する啓蒙普及、自然観察会・研究会等の実施、会誌その他出版物の発行その他本会の目的達成に必要な事業を行う。(会則第四条 事業)
設立年	1972 年
主な活動内容	鳥類観察会として「より鳥みどり観察会」、昆虫観察会として「楽しい昆虫ウォッチング」、植物観察会として「やさしい植物ウォッチング」の自然観察会を始め、中央線沿線ウォッチングや奥武蔵ウォッチング、地質・地形の観察会として、「地球の窓シリーズ」、や近隣の公園緑地を訪ねるなど、年間 30 回を越える行事を実施している他、日野市からの委託事業として市内にある「大木島自然公園」の野草園を中心とした管理作業を実施(月 2 回)しております。同公園にて観察会の実施(年 1 回)も行っています。 また、環境共生部と定期的な話し合いの場を持ち、環境保全についての意見交換を行っている他、国土交通省に働きかけて、生態系保持空間の外来種シナダレスズメガヤの抜根など環境保全に取り組んでいます。
主なフィールド*	主に日野市内を中心に、隣接する市や近県
活 動 日	毎週土日および祝日 毎月第 2・4 月曜日(大木島自然公園の手入れ)
会 員 数	108 名(2024 年 4 月 1 日現在)
募 集	随時
そ の 他	年会費 3,000 円(入会金 1,000 円)(期間:4 月 1 日~翌年 3 月 31 日) 会誌「日野の自然」毎月 1 日発行(会員に送付)
団体の課題 (複数回答可)	☒ 人員不足 ☒ 会員の高齢化 ☒ 活動資金不足 ☐ 団体の周知 ☐ その他()
自由記載	当会ホームページ https://hinonoshizen.sakura.ne.jp 2023 年度年間行事は別紙による

2023 年度行事実績

区分	日程	行事名	参加者数	備考
観察会				
1	4月2日	やさしい植物ウォッチング「片倉城跡のカタクリ」	13	
2	4月30日	より鳥みどり観察会「南平丘陵公園：新緑の雑木林で渡り途中の夏鳥を探す」		雨天中止
3	5月6日	楽しい昆虫ウォッチング「春の昆虫とゼフィルス等のチョウの幼虫探し」	6	
4	5月7日	地球の窓シリーズ「御殿峠れき層を訪ねてNo.3」		雨天中止
5	6月3日	楽しい昆虫ウォッチング「多摩川河川敷で、ウラゴマダラシジミ他、河川敷の昆虫たちを観る」		雨天中止
6	6月4日	より鳥みどり観察会「ツバメと浅川の夏鳥」	22	
7	6月10日	八王子市の公園緑地を訪ねる「別所探検ウォーキング～せせらぎ緑道から長池公園～」	16	
8	6月24日	楽しい昆虫ウォッチング「雑木林の蝶と初夏の昆虫たちを観て、手すりの昆虫を探す」	5	
9	7月10日	程久保川のワンドを誰もが自然と親しめる場所に！「ワンドの草刈りとミニ観察会」	8	
10	7月22日	楽しい昆虫ウォッチング「高尾山で国蝶オオムラサキや青い宝石アオタマムシなど、夏の昆虫を探す」	9	
11	8月5日	やさしい植物ウォッチング「東光寺のパアソブ」	11	
12	9月9日	楽しい昆虫ウォッチング「秋の夜長に鳴く虫の女王のカンタンの音を聴く」	10	
13	9月9日	中央線沿線ウォッチング「神田駅・東海道を歩く No.1」	9	
14	10月1日	より鳥みどり観察会「高尾山（ケーブルカー駅付近）で鷹の渡りを観る会」		雨天中止
15	10月9日	地球の窓シリーズ「御殿峠れき層を訪ねてNo.3」		雨天中止
16	10月14日	楽しい昆虫ウォッチング「河川敷の秋の蝶と昆虫を観る」	11	
17	10月28日	奥多摩ウォッチング「古里駅・鳩ノ巣溪谷」	22	
18	11月11日	中央線沿線ウォッチング「浜松町駅・東海道を歩くNo.2」	10	
19	11月18日	やさしい植物ウォッチング「多摩丘陵の紅葉と帝京大学博物館」	14	
20	11月19日	より鳥みどり観察会「秋の浅川の身近な野鳥たち」	23	
21	12月9日	楽しい昆虫ウォッチング「冬の雑木林でフシヤクガとゼフィルスの卵探し」	8	
22	12月10日	より鳥みどり観察会「パードウォーク2023（滝山城址・高月水田）」	25	
23	12月16日	八王子の公園緑地を訪ねる「松が谷探検ウォーキング～八王子市と多摩市の市境を歩く」	22	
24	12月23日	地球の窓シリーズ「御殿峠れき層を訪ねてNo. 3」	20	
25	1月14日	より鳥みどり観察会「黒川清流公園ニューイヤーカーカウント2024」	27	
26	1月27日	中央線沿線ウォッチング「東京駅・甲州街道を歩く」	12	
27	2月11日	より鳥みどり観察会「多摩川の水鳥たち（多摩川・谷地川合流点～立日橋・日野橋）」	34	
28	2月24日	中央線沿線ウォッチング「高輪ゲートウェイ駅・東海道を歩く No.3」	12	
29	2月25日	より鳥みどり観察会「冬の野鳥と生きものの冬越し」		雨天中止
30	3月10日	より鳥みどり観察会「多摩川・浅川合流点付近：渡り前の冬鳥達と河原の春」	24	
31	3月16日	八王子の公園緑地を訪ねる「堀之内探検ウォーキング～宮嶽谷戸と薬用植物園」	20	
32	3月23日	楽しい昆虫ウォッチング「幻のタマムシ・クロビタマムシとウスバシロチョウの幼虫を探す」		雨天中止
33	3月25日	ミニ観察会「大木島自然公園で春の野草観察」		雨天中止
34	3月30日	奥多摩ウォッチング「羽村駅・玉川上水を歩く」	17	
		観察会参加者小計	410	
特別行事				
1	2023年5月13日	第52回定期総会	9	
2	2024年1月6日	新春自然へのお誘い		中止
		行事参加者合計	419	
大木島自然公園管理作業（毎月2回実施）			217	
		総合計	636	
日野市主催行事				
1	2023年4月30日	多摩川・浅川クリーン作戦		雨天中止
カワセミハウス協力行事				
1	8月11日	カワセミハウス協議会環境分科会主催「川の生きものをさがそう！」	21	（参考値）
2	8月20日	カワセミハウス協議会環境分科会主催「藍の生葉で型染をしよう」	20	（参考値）

団 体 名	日野の水車活用プロジェクト		
代表者名	上野さだ子		
連絡方法	〒191-0032 東京都日野市三沢 4-2-7-5-201 TEL:042-592-2800		
団体案内 (目的・趣旨)	向島用水親水路に設置されている復元水車を使って、電気を使わないで水力だけでの昔の精米方法の面白さを体験してもらう		
設立年	2011 年		
主な活動内容	1、11月16日 潤徳小学校5年生4組を対象に水車精米体験を行う 2、11月29日 第八小学校たちばな学級生徒を対象に精米見学を行う 3、水車清掃年2回 5月13日・10月14日(第三土曜日)に水車清掃 (水車小屋周辺の清掃と高圧洗浄機で水輪のコケ取り) 4、例会を隔月あるいはイベントの前月第三土曜日に行う 5、水車に関心を持つ団体から水車体験依頼の要望があれば受け入れる (たんぼの輪・宮自治会散歩3月9日など)。 ※ 以前は他地方の水車見学や学習会を行ったが、最近では会員の高齢化が進みイベントは減らしている。		
主なフィールド	向島用水親水路に設置されている復元水車周辺		
活 動 日	主に第三土曜日9:30～12:00		
会 員 数	10 名		
募 集	随時		
そ の 他			
団体の課題 (複数回答可)	☐ 人員不足 ☐ 会員の高齢化 ☐ 活動資金不足 ☐ 団体の周知 ☒ その他(会員の老齢化による事業の減少)		
自由記載			

団 体 名	ひの・まちの生ごみを考える会
代表者名	佐藤美千代
連絡方法	日野市ごみゼロ推進課 TEL:042-581-0444 ひの・まちの生ごみを考える会メール E-mail:info@namagomi-heraso.com
団体案内 (目的・趣旨)	当団体は生ごみの減量とたい肥化を広めるための活動を行っています。月 1 回の定例会にて、日野市ごみゼロ推進課職員を交えて、ごみ減量のための提言や協議を行なっています。また、ごみ減量に関する講演会を催したり、ごみ減量に取り組む施設などの見学を行う事で、ごみ減量のあり方について方向性の模索と勉強を行なっています。近年では SNS の活用、小学校等への出前授業、オンラインでダンボールコンポストの講習会を行う等、若い世代への啓発活動も積極的に行っています。 《生ごみリサイクルサポーター連絡会の活動》2009 年3月に発足。2011年9月に生ごみを手軽にたい肥化できるダンボールコンポスト(基材:竹パウダー、もみ殻燐炭)を日野市ごみゼロ推進課と共同開発。使い方の講習会の開催、各種イベントでの展示・説明・PR活動を通して普及活動をしています。 《まちの生ごみ活かし隊の活動》生ごみの地域循環型を目指して 2006 年5月に発足。2008 年 10 月にコミュニティガーデン「せせらぎ農園」を開設。近隣約 200 世帯から生ごみを回収して土ごと発酵で堆肥化していましたが、2022 年 3 月に生ごみ回収は終了。現在約 60 世帯が生ごみを持ち込み、竹チップと落ち葉と混ぜて約 3 か月で完熟たい肥を作り、畑で野菜や花を栽培しています。
設立年	2002 年
主な活動内容	・毎月第4金曜日定例会開催 ・ダンボールコンポスト使い方講習会 会場講習会(年間約 4 回)/オンライン講習会(毎月 1 回) ・花壇プロジェクト 生活・保健センター正面玄関花壇、カワセミハウスの花壇を、生ごみたい肥を使用して管理 ・各種イベントにてPR活動 市民フェア、カワセミハウスオクトーバーフェスト まち活、万願寺交流センター子どもまつりなど ・ごみ減量施設の見学会 ・講演会開催 専門の講師を招いて講演会を開催
主なフィールド	ひの市民活動支援センター
活 動 日	毎月第 4 金曜日定例会 午後1時～午後 4 時
会 員 数	11 人 + 日野市ごみゼロ推進課職員



募 集	随時
そ の 他	ホームページ https://www.namagomi-heraso.com/
団体の課題 (複数回答可)	☒ 人員不足 ☐ 会員の高齢化 ☐ 活動資金不足 ☒ 団体の周知 ☐ その他()
自由記載	～人生 100 年時代 捨てない暮らしを始めませんか～ 生ごみは燃やさなくても処理できて、しかも野菜を育てるのに欠かせないたい肥となる資源です！資源をお金をかけて燃やすというこのおかしい現実？？ ダンボールコンポストについてはもちろん、環境保全や地域循環、家庭菜園について興味のある方勉強したい方、私たちと一緒に活動しませんか。役に立つ情報が得られますよ！

団 体 名	日野みどりの推進委員会
代表者名	代表 立川絹代
連絡方法	事務局 日野市緑と清流課公園緑政係 TEL:042-514-8307
団体案内 (目的・趣旨)	1.東京都が設立した市民参加・緑地保護監視組織「東京都緑の監視員」制度の日野地区会が当初の組織。 2.途中から名称が「東京都みどりの推進委員」になり、平成 14 年 3 月都の組織改革に伴いこの制度は廃止になった。 3.日野地区会はボランティアとして名称を「日野みどりの推進委員会」に変更し市内の公園緑地、雑木林を拠点に、市民の公園利用 PR を目的に自然観察会等を実施している。
設立年	1974 年、現行団体名は 2002 年から。
活動内容	自然観察会年 8 回(4、5、7、10、11、12、翌 2、3 月) 市民向けに市内の公園緑地、雑木林の季節ごとの自然を案内している。 活動内容(2023 年度) 7 月 昆虫観察会(幼児、小学生対象) 南平丘陵公園 11 月 自然観察会 多摩動物公園駅～都立七生公園(雑木林の紅葉) 12 月 講習会 しめ縄作り、リース作り カワセミハウス 2 月 自然観察会 日野駅～東光寺緑地(樹木の冬芽) 3 月 自然観察会 日野駅～神明上第三、第五、第六緑地(早春の野草カタクリ)
主なフィールド	主に市内の公園緑地と雑木林とその周辺
活 動 日	主に第 4 土曜日(変わる場合も有り)
会 員 数	メンバー 6 名 年間参加者 150～200 名 (年齢層 幼児～成人)
募 集	メンバーの募集……………自薦または他薦 観察会参加者の募集…市広報
そ の 他	
団体の課題 (複数回答可)	☒ 人員不足 ☒ 会員の高齢化 ☐ 活動資金不足 ☐ 団体の周知 ☐ その他()
自由記載	

団 体 名	程久保川を考える会
代表者名	藤村 民世
連絡方法	
団体案内 (目的・趣旨)	程久保川の環境調査・清掃
設立年	1994 年
主な活動内容	水質検査(月 1 回) クリーンデーの開催(春・秋の年 2 回) ※コロナ以後、中止しています。 「身近な水環境の全国一斉調査」参加(年 1 回:6 月)
主なフィールド	程久保川
活 動 日	毎月第2水曜日、5 月と 10 月の第 2 日曜日(変更あり)
会 員 数	7 人
募 集	なし
そ の 他	
団体の課題 (複数回答可)	
自由記載	

団 体 名	みずとくらす・ひの		
代表者名	井上 博司		
連絡方法	連絡先 三村 聡 E-mail:mimura6472@gmail.com		
団体案内 (目的・趣旨)	2013 年度にスタートした「水辺のある風景日野 50 選プロジェクト」は、市民、行政職員、法政大学エコ地域デザイン研究所メンバーによるワーキンググループにより水辺の選定などを行いました。2015 年にワーキンググループは市民団体「みずとくらす・ひの」として再スタートし、行政などと連携しながら水辺を後世に残すための活動を行なっています。		
設立年	2016年		
主な活動内容	谷地川 日時:2023年1月21日(土)9時 日野駅改札前 日野駅～多摩川谷地川合流地点～東光寺グラウンド～No.2 東光寺の小さな棚田～新旭橋～石川堰～谷地川緑道～下田橋(日野、八王子市境)～石川1号緑地～田島橋～谷地川緑地～万年橋～谷地川児童遊園～西野橋～大谷北バス停で解散。参加者 21名 3 月は、中止しました。 百草・倉沢散策 日時:2023年5月20日(土)9時 百草園駅南口階段下 百草園駅～一ノ宮交差点～No.47 真堂が谷戸～大栗川～No.49 倉沢の田んぼのある風景(石坂ファームハウス)～万蔵院台地～由木農場～帝京大学総合博物館 解散。参加者 22名 7 月は、中止しました。 黒川水路散策 日時:2023年9月16日(土)9時 豊田駅北口階段上 豊田駅～黒川水路源流～清水谷公園～山王下公園～カワセミハウス～No.22 黒川正龍公園～野鳥の森公園～神明上第 10 号緑地～黒川水路、豊田用水に合流～豊田用水、上田用水の合流～駒形公園で解散。参加者 18名 日野用水(駅西側)散策 日時:2023 年 11 月 18 日(土)9 時 日野駅改札前 日野駅～宇津木台バス停～No. 1 平堰～石川堰～水路橋～No. 6 水車堀公園～No. 5 よそうもり公園～日野用水上堰橋脚で解散。参加者18名		
主なフィールド	水辺のある風景日野 50 選		
活 動 日	会議 偶数月第3金曜日、ガイドツアー 奇数月第3土曜日		
会 員 数	10名		
募 集	随時		
そ の 他			
団体の課題 (複数回答可)	☒ 人員不足 ☒ 会員の高齢化 ☐ 活動資金不足 ☐ 団体の周知 ☐ その他()		
自由記載	日野用水マップ販売 ①日野用水(日野駅西側)その1 ②日野用水(日野駅東側)その2 ③豊田用水 ④平山・南平用水 ⑤向島用水 日野宿観光案内所にて		

団 体 名	谷仲山緑地を守る会
代表者名	笹木延吉
連絡方法	事務局 佐々木徹 TEL:080-5409-5207 E-mail:kaitakaken@gmail.com
団体案内 (目的・趣旨)	谷仲山緑地は、神明上土地区画整理事業により公有化された、主に日野台地の北斜面の雑木林です。しかしその後、人の手による管理がほとんどされていない状態が続き、貴重種の野草たちが細々と生息していました。そこでボランティア活動によりこれを明るく健全な雑木林として管理し、野草たちを保護育成し、この自然環境を市民の皆様にも公開することを目的に、2016年5月「谷仲山緑地を守る会」を立ち上げました。
設立年	2016年
主な活動内容	カタクリを保全し明るい健全な雑木林に ①雑木林の育成・維持・管理に関する作業 ②植生調査と植物の保護 ③カタクリ等の野草観察会の実施 ④環境学習の開催 ⑤他ボランティア団体との交流
主なフィールド	谷仲山緑地(神明第3緑地、神明第5緑地、神明第6-1、6-2緑地)
活 動 日	第3日曜日 午前9時30分～15:00まで
会 員 数	14名
募 集	常時
そ の 他	会費 2,000円/年(ボランティア保険込み)
団体の課題 (複数回答可)	☒ 人員不足 ☒ 会員の高齢化 ☒ 活動資金不足 ☐ 団体の周知 ☐ その他()
自由記載	日野市とのパートナーシップ協定の締結 日野市と谷仲山緑地を守る会は、谷仲山緑地等を市内に残された貴重な動植物の生育環境が維持できる樹林地として位置づけ、カタクリ等希少生物の生育環境を維持・保全し、生物多様性に配慮した活動を進めていくこととしました。これに基づき、2022年、両者は協力・連帯して「谷仲山緑地の管理・運営に関するパートナーシップ協定」を締結しました。この協定締結により私達の思いが次世代に引き継がれますように!! 今日までの私たちの地道な活動により、第3緑地はカタクリやキツネノカミソリ、第5緑地はニリンソウ、そして第6緑地ではニリンソウやハチオウジアザミなどの野草たちの大群落がみられるようになりました。また第6緑地の湧水(水辺のある風景日野50選のひとつ)付近では6月初旬ごろ淡いホタルの光が!!

谷仲山緑地の野草・樹木



エイザンスミレ



フイリハグロスミレ



ナガバノスミレサイシン



ハチオウジアザミ



ツクバカブト



キツネノカミソリ



タカオヒゴタイ



アブラチャン



ヤマトアオダモ



コクスギ

～谷仲山緑地とは～

谷仲山緑地は、昭和41年に始まった日野市旅行の神明土地区画整理事業により民有地の雑木林が緑地として公有化された、主に日野台地の北斜面の緑地です。しかしその後、人の手による管理がほとんどされていない状態が続き、貴重種の野草たちが細々と生息していました。そこでボランティア活動によりこれを明るく健全な雑木林として管理し、野草たちを保護育成し、この自然環境を市民の皆様に公開することを目的に、平成28年5月「谷仲山緑地を守る会」を立ち上げました。7年目（令和5年）を迎えた私たちの地道な活動により、第3緑地はカタクリやキツネノカミソリ、第5緑地はニリンソウ、そして第6緑地ではニリンソウやハチオウジアザミなどの野草たちの大群落が見られるようになりました。また第6緑地の湧水（水辺のある風景日野50選のひとつ）付近では6月初旬ごろ淡いホタルの光が!!

～一緒に活動してみませんか～

私たちは、ボランティアとして明るく楽しく活動し1日を有意義に過ごすことを感じています。

活動場所：神明上第3・5・6緑地

（日野市日野本町3-6-1ほか）

活動内容：萌芽更新、粗朶柵作り、下草刈り、カタクリ等の野草保護、カタクリ祭（3月下旬）、ホタルの観察（5月下旬から1か月）

活動日：毎月第3日曜日、9時半～15時

集合場所：谷仲山地区センター

年会費：2,000円（ボランティア保険込み）

連絡先：代表 笹木延吉 電話 090-6029-1811

副代表 立川綱代 電話 042-584-5369

2023.03製作 佐々木徹 電話 080-5409-5207

谷仲山緑地を守る会



明るく健全な雑木林を次の世代に!!

【神明上第3緑地のカタクリ祭】今まで滞っていた雑木林の管理（下草刈り、萌芽更新など）を進めるうちに、カタクリの群落が毎年少しずつ増えてきました。そこでこの貴重なカタクリを市民の皆様に観察していただき、自然を守る大切さを共感していただきたく、開花期である3月下旬の1週間ほどテントを張り、写真等を展示したカタクリ祭を開催し皆様のご案内をしています。



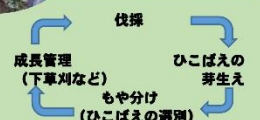
【日野市とのパートナーシップ協定締結】日野市と谷仲山緑地を守る会は、谷仲山緑地等を市内に残された貴重な動植物の生育環境が維持できる樹林地として位置づけ、カタクリ等希少生物の生育環境を維持・保全し、生物多様性に配慮した活動を進めていくこととしました。これに基づき、令和4年、両者は協力・連携して「谷仲山緑地の管理・運営に関するパートナーシップ協定」を締結しました。この協定締結により私達の思いが次世代に!!

谷仲山活動エリア・アクセス

日野駅から、第3緑地5分、第5緑地12分、第6緑地13分、湧水16分
（いずれも駐車場はありません）



【萌芽更新】放置されたままの大木を、秋から冬の間、木の活動が休まる時期に伐採します。切り株からヒコバエと呼ぶ新芽が出てきて、世代交代（萌芽更新：右図）が進みます。



【雑木林の保全と管理】昭和30年代以降の燃料革命等により、雑木林には昔のような薪炭材、農用林としての重要な役割がなくなりました。それまでは薪や炭、畑に入れる落ち葉、農具や生活用具、食料にいたるまで、生活に必要なものを雑木林からまかっていた暮らしがありました。そして雑木林は、人の手が入ることで豊かな自然のバランスが保たれていました。雑木林は手入れを怠ると、数年で藪になり、生物多様性もなくなります。下草刈りや萌芽更新作業など私達ボランティアの努力で健全な雑木林を継ぎの世代につなげましょう!!

【草刈り】ササは放っておくとどんどん高く育ち、他の植物が入り込む余地がなくなってしまう。草刈りを定期的に繰り返すことで草地全体の草丈が低く抑えられ、植物の多様性が保たれます。



【粗朶（ソダ）柵作り】木を1本伐採すると多くの枝を整理しなければなりません。斜面の土留めもかねて、杭を打ち、そこに適当な長さに切りそろえた枝（粗朶）を積み上げていきます。



2 章 幼稚園・保育園における環境への取組状況

この章では、幼稚園・保育園の環境への取組状況を紹介いたします。環境への取組の実施状況についてアンケートを実施し、市内幼稚園 4 園・市内保育園 14 園から回答が得られました。

番号	学校名	取組分野						
		①地球温暖化 (緩和)	②地球温暖化 (適応)	③水	④みどり	⑤生き物	⑥ごみ	⑦その他 取組
1	第二幼稚園	○	○		○	○	○	○
2	第四幼稚園	○	○	○	○	○	○	○
3	第七幼稚園	○	○				○	
4	日野ひかり幼稚園	○	○		○		○	○
5	あらい保育園				○		○	
6	ひらやま保育園	○	○		○		○	
7	みさわ保育園	○	○		○		○	
8	たかはた台保育園	○	○		○		○	
9	みなみだいら保育園	○	○				○	
10	あさひがおか保育園	○	○		○			
11	もぐさ台保育園	○	○		○	○	○	
12	おおくぼ保育園	○	○		○		○	○
13	しんさかした保育園	○	○				○	
14	日野保育園	○	○		○			
15	ひよこハウス豊田	○	○		○			
16	豊田保育園	○	○		○			
17	栄光多摩平の森保育園	○	○	○	○		○	
18	わらべ日野市役所東保育園	○	○		○		○	
合計		17	17	2	15	3	14	4

学校名	取組内容
第二幼稚園	①エアコンの設定温度を必要以上に下げない(冷やしすぎない) ①活動する場所を調整し、エアコンの必要台数のみの稼働とする ②適切なタイミングでの給水 ②WBGT 測定器の活用により注意喚起 ②日頃からの様々な状況を想定した避難訓練の実施 ④季節の野菜栽培 ⑤捕獲した昆虫や生き物の飼育 ⑥野菜くずを活用した土づくり ⑥廃材利用の製作やその再利用(組み立てたものを解体し再度廃材として製作で活用) ⑦保護者協力の「もったいない市」に協力し、衣類や靴などの譲り合いを推奨
第四幼稚園	①ごみゼロマンや、エコアラ・エコクマによる環境学習 ②熱中症計を設置し表示やアラームを確認しながら、活動を考えたり、降園後の遊びの中で保護者の危機認知への啓蒙をしている ③④多摩川土手や近隣公園の自然環境を活用した園外保育 ④園内にプランターの水田を作り、親子で稲の植え付けから収穫まで行う農業体験 ⑤園内の野菜につく昆虫(モンシロチョウ)の幼虫から成虫までの観察と自然へのリリース ⑥家庭、近隣の学校などの野菜くずや、果物の皮などを EM ぼかし菌と一緒に土の中に混ぜ込み土づくりを行う。その後その土を利用して野菜の栽培、収穫、家庭に持ち帰り調理し食するという食の循環体験になるような活動を行っている ⑦保育の中で、使わない電気を消す、廃材を活用して遊びに生かす等の取組を行っている
第七幼稚園	①照明のこまめな消灯、エアコン使用の部屋をなるべく少なく短時間にする ①植物や野菜の栽培など ②熱中症予防の呼びかけ(子どもにも保護者にも) ②いろいろな災害を想定した避難訓練 ⑥生ごみを活用した土づくりによる野菜の栽培
日野ひかり幼稚園	①節電対策 ①太陽光発電 ①野菜(鉢植え)の栽培 ②熱中症の対策を呼びかける(水分補給など) ②ミストシャワーの設置 ④収穫体験(園外) ⑥紙の節約 ⑥給食の食べ残しを減らす ⑦節水対策
あらい保育園	④園内の畑を利用してじゃがいも・さつまいも夏野菜の栽培をしている ⑥給食で出た野菜くずとぼかしを混ぜ、土作りをしている

ひらやま保育園	①グリーンカーテンの設置 ①エコクマ・エコアラを呼んでの環境学習 ②ハザードマップの確認 ②洪水訓練の実施 ②プール後の水まき ④公園、緑地、河原など自然に触れ合う散歩の実施 ⑥給食の野菜クズを利用した土作り ⑥ゴミの分別化 ⑥ごみゼロマンとの環境学習
みさわ保育園	①日よけを設置 ①園庭にはスプリンクラーで水撒き ②熱中症予防として日よけ、ミストシャワーの設置 ②ハザードマップの確認。目の付く場所に掲示 ④農園経験、見学 ⑥クリーンセンターの見学 ⑥生ゴミで肥料作り
たかはた台保育園	①⑥4、5 歳児の子どもたちが、給食室が廃棄した野菜くずを使用して、土づくりを行っている ①④出来上がった土を使用して、野菜の栽培を行い、収穫を楽しんでいる ②熱中症対策のために、園庭に日よけ、ミストシャワーの設置 ⑥エコクマ・エコアラに来園いただき、子ども達と一緒に学んだ
みなみだいら保育園	①グリーンカーテンの設置 ②熱中症の対策 ⑥土作り
あさひがおか保育園	①②グリーンカーテン、ミストシャワーの設置 ④畑による野菜作り ④散歩などを通して虫や花を見る
もぐさ台保育園	①環境学習として、エコクマ・エコアラを呼んで子どもに分かりやすいように伝えている ①プールの水を打ち水にして外気温を下げるようにした ①ごみゼロマンを呼んで、ごみの減量に関する学習をしている ②寒冷紗、ミストシャワーの設置 ②こまめな水分補給、必要に応じた塩分補給 ②様々な災害を想定した避難訓練 ②BCP 研修への参加 ④日野市産ブルーベリーの摘み取り体験 ④日野市産野菜の給食での提供 ④近隣公園や、丘陵地への散歩 ⑤多摩動物公園への遠足 ⑥給食野菜・芋づるを利用した土作り

おおくぼ保育園	①②グリーンカーテンの設置 ①プールの後、園庭に水撒きをしている ①日よけの設置(遮光ネット) ①ミストシャワーの設置 ①ネッククールタオルの使用 ④湧水・公園内の川にすむ生き物を観察する ④水田の生きもの(おたまじゃくし)を観察する ⑥野菜くずを利用した土づくりを行い、夏野菜を育て収穫し喫食する ⑦ゴミの分別の徹底 ⑦環境学習を通しての食べ残しを減らす活動
しんさかした保育園	①グリーンカーテンの設置(ゴーヤの苗を植えたり、朝顔の種をまいて育てて子どもたちと一緒に楽しみながら、二酸化炭素を削減する取り組みを行っている) ②熱中症対策の呼びかけ(プールや水遊びで涼をとる・水分補給をこまめに行うなど) ②ミストシャワーで涼をとる ⑥畑の作物を育てる際に、菌ちゃんの土づくりを子どもたちと一緒にしています ⑥くず野菜を細かくちぎったぼかしを入れたりして土に混ぜ、夏野菜やジャガイモ、さつまいもを育てています
日野保育園	①エアコンの設定の工夫(夏 27℃以上 冬 18℃以下) ②熱中症対策、外遊びの制限、水分補給の呼びかけ、ハザードマップの確認と洪水訓練 ④用水路がある公園で観察 ④芋掘体験
ひよこハウス豊田	①エアコン温度 28℃を目標に設定(猛暑日以外) ②遮光カーテン設置 ②熱中症対策の呼びかけ ④収穫体験
豊田保育園	①子どもが使う手洗いの水道を、自動水栓に変えて水の無駄遣いが少なくなるようにした ①トイレの電気は自動で点灯・消灯するようになっている ②日よけを設置 ②熱中症チェッカーを、戸外活動やプール活動の判断のツールとして使用 ②ハザードマップの確認 ②プール使用後の水を園庭にまく ④園の畑での栽培収穫体験をしたり、そこで育てている実のなる木や野菜の生長の観察を行っている

栄光多摩平の森保育園	①園舎の周りに芝生・木を植えている。園庭に 3 本の樺 ①畑で野菜づくり ②園庭に日陰を作り熱中症対策、ミストシャワーをしている ②毎月の避難訓練で火事や地震、近所から出火などいろいろな場面を想定して行っている ②年に 1 度、防災の日に保護者に引き取り訓練に参加してもらっている。地震・台風などの時はモバイルメールで保護者に連絡を取る ③黒川清流公園で水辺の様子を話したり触れて学習する ④野菜作り、米作りを体験 ④緑地の散歩で生き物を見たり探したりする ⑥生ごみ処理機を使っている
わらべ日野市役所東保育園	①②熱中症対策 ②日よけの設置 ②テント設置により日陰を作る ④⑥園内の畑、プランターでの栽培収穫体験と観察し、食育を行う

3 章 小学校・中学校における環境への取組状況

この章では、小学校・中学校の環境への取組状況を紹介いたします。環境への取組の実施状況についてアンケートを実施し、市内小・中学校 25 校から回答が得られました。

番号	学校名	取組分野						
		①地球温暖化 (緩和)	②地球温暖化 (適応)	③水	④みどり	⑤生き物	⑥ごみ	⑦その他 取組
1	日野第一小学校	○	○	○	○			
2	豊田小学校	○	○		○			
3	日野第三小学校	○	○	○	○	○		○
4	日野第四小学校	○	○	○	○	○	○	○
5	日野第五小学校	○	○		○			○
6	日野第六小学校	○	○		○	○		○
7	潤徳小学校	○	○	○	○	○	○	○
8	平山小学校			○	○		○	○
9	日野第八小学校	○	○	○	○			
10	滝合小学校	○	○	○	○	○		
11	日野第七小学校			○	○	○		
12	南平小学校	○	○	○	○		○	○
13	旭が丘小学校	○	○		○	○	○	
14	東光寺小学校	○	○	○	○			○
15	仲田小学校	○	○	○	○	○		
16	夢が丘小学校	○	○					○
17	七生緑小学校	○	○		○	○		
18	日野第一中学校	○	○	○	○		○	○
19	日野第二中学校	○	○		○	○		
20	七生中学校	○	○					
21	日野第三中学校		○				○	
22	日野第四中学校	○	○	○	○	○		
23	三沢中学校	○	○	○		○	○	○
24	大坂上中学校	○	○					○
25	平山中学校	○	○					○
合計		22	23	14	19	12	8	13

学校名	取組内容
日野第一小学校	①社会科や総合的な学習の時間などで、地球温暖化について調べるなどして学ぶ ①校内の農園で、野菜、米などを栽培する ②熱中症対策を呼びかける ②教職員でハザードマップを確認する ②風水害時の対応について、学級指導をする ③仲田の森でどんぐりクラブの方から指導を受ける ④学校にある水田での米作り
豊田小学校	①②グリーンカーテンの設置 ①カーボンハーフにまつわる授業の実施 ②ハザードマップの確認 ④自然教育の林(第二校庭)を活用し、生き物や見学や水田による米づくりを行っている
日野第三小学校	①エアコンの設定温度を夏は 28℃、冬は 18℃を目標にしている ②災害安全の学習を進めている ②ミストシャワーを設置している ③⑤谷地川での体験活動 ④水田での稲作 ⑦ユニセフ募金 ⑦エコアクションの取組
日野第四小学校	①5 年生:理科での学習で植物が二酸化炭素を吸収することで、環境に影響していることを伝えている。社会での災害に対する学習で気候変動に関する学習をしている ②全校朝会などで、熱中症の防ぎ方を伝えている ②防災教育で、大雨について考える機会がある ③1 年生・2 年生:校外学習の際に多摩川について説明している ④5 年生:稲作学習 ⑤2 年生:仲田の森での水の生き物と触れ合う ⑥4 年生:ごみプロジェクト ⑦給食での残菜を減らす活動 ⑦人がいない場所の照明を消す活動 ⑦エアコンを適正温度での使用 ⑦ごみの分別の徹底 ⑦蛇口をこまめにしめ、水の節制 ⑦印刷の際の再利用紙の使用
日野第五小学校	①エアコンを集中管理し、設定温度を守っている ②暑さ指数を毎時間測り、過ごし方を放送で呼びかけている ④水田による米作りから収穫体験までの学習 ④地域を歩き、興味関心をもった場所への探究活動 ⑦着なくなった服を回収し、難民などの服を必要とする人々に届ける活動

日野第六小学校	①植物、芝生の育成、節電、こまめに電源を切る ②エアコンの温度設定(場所によって多少の差はある) ④⑤公園への虫取り、どんぐり拾いなど ⑦SDGsをテーマにした環境学習 ⑦給食の食べ残しを減らし、フードロスを意識させた給食指導
潤徳小学校	①市の「エコキング」の取組、東京都の「HTT」の取組の推進 ②ミストシャワーの設置 ②スプリンクラーによる放水 ②日々の WBGT の数値測定による校外活動の可否の判断、水筒持参の許可。運動時にマスクを外すことの励行 ③4年生:総合的な学習「浅川博士になろう」 ④2年生:生活科「まりたんけん」(学区の公共施設(公園)調べ) ④各学年の学級園等での栽培活動 ⑤3年生:理科「こん虫の育ち方」(浅川河川敷での虫捕り、多摩動物公園の昆虫館での飼育員からの授業等) ⑦ユニセフ募金の協力
平山小学校	③浅川のガサガサ体験 ④水田で古代米づくり ⑥委員会活動(沢田公園でのごみ拾い) ⑦学校運営協議会主催の地域体験教室実施
日野第八小学校	①②ESD ミーティング ③浅川散策 ④せせらぎ農園
滝合小学校	①校庭の芝生を全校児童で草取り、石拾い等の整備を行う週間を各学期に設定 ①その他、保護者や地域の方も一緒に整備作業をする日を年に1回設けている ②校庭の芝生化 ②熱中症防止のために、WBGT を最低でも朝、中休み前、昼休み前に測定して周知をして、安全第一で屋外の活動を実施する ②地域と学校が協同して、毎年防災訓練を行っている ③④全学年において、校庭にある田畑、ビオトープを活用した生活科、理科、社会科、総合的な学習の時間の授業を行っている ⑤校庭南側の浅川にてガサガサ体験、生き物調べを行っている

日野第七小学校	③⑤3年生の総合的な学習の時間で、カワセミハウスさんやどんぐりクラブの方のご協力をいただき、プールにいたヤゴを自然にかえしたり、中央公園や黒川清流公園などに観察に行き、自然のためにできることを考えている。また、イオンスタイルでもインタビューや店内観察をさせていただいた ④5年生の総合的な学習の時間で、日野の農家の方々にご協力をいただき、日野産の野菜についてインタビューしたり収穫体験をさせていただいた。また、JA みなみの恵や市役所の野菜販売の様子を観察した。1学期末には、日野産の野菜や農家さんの素晴らしさを保護者に伝える日野ベジフェスを行った
南平小学校	①校内の電気をこまめに消す ①エアコンの温度設定は 28℃を基本とする ②熱中症対策を呼びかける ②ミストシャワーの設置 ③浅川にすむ生き物の観察 ④水田による米作り ⑥クリーンセンターの見学 ⑦ユニセフ募金
旭が丘小学校	①エアコンの設定温度を低くしすぎず、扇風機と併用する ②ミストシャワーの設置 ②暑さ指数を基に熱中症の対策を呼びかける ②ハザードマップの確認 ④さつまいも、大根の栽培、収穫 ④⑤雑木林を活用した学習 ⑥エコチャレンジによる、ごみの分別、再利用
東光寺小学校	①②校庭の芝生化、芝生管理 ③用水遊び(1、2 年生) ③用水調べ(4 年生) ④稲作体験(5 年生) ⑦菊栽培(5、6 年生) ⑦植物を育てる
仲田小学校	①エアコンの設定温度を夏は28℃を目標に設定する ②熱中症の対策を呼びかける ②ハザードマップの確認 ③水田によるコメ作り ④公園の緑地を活用した授業 ⑤湧水に住む生き物の見学
夢が丘小学校	①エアコンの温度設定 ②熱中症の呼びかけ ⑦ユニセフの募金活動

七生緑小学校	①エアコンや電気など、必要のないときは消すように促している(省エネ) ②熱中症の対策を呼びかけている ④ペットボトルで米づくり ⑤学校隣の百草台自然公園でいろいろな季節にいる昆虫の観察
日野第一中学校	①②エアコンの温度を必要以上に下げない・適切な温度で使用する ③節水に努めている ④お花(チューリップなど)を植えるようにし、みどりを増やしている ⑥ペットボトルキャップの回収 ⑦コンタクトレンズの空ケースを回収
日野第二中学校	①イオン多摩平店店長に来ていただき、イオングループとしての環境への取り組みを講話していただいた ②調べ学習において、自分たちができる対策の検討 ②学校全体としての熱中症対策 ④職場体験における農家やクリーンセンターでの体験 ④⑤調べ学習。理科の授業の一環で、生態系や生き物について調べ、レポート作成。
七生中学校	①教職員のクールビズを推進し、エアコンの設定温度を夏は28℃を目標に設定する ②熱中症の予防について、保健委員会を中心に校内への呼びかけ・注意喚起を行っている
日野第三中学校	②熱中症対策の呼びかけ ⑥ゴミの分別
日野第四中学校	①エアコンや電灯のスイッチの管理等、節電の意識向上 ①理科や技術、社会等の授業で取り扱って学習 ②熱中症対策を策定し、生徒と保護者と共有している ②テントの設置 ③④⑤総合的な学習の時間で生徒のテーマと関連して学習
三沢中学校	①グリーンカーテンの設置 ①エアコンの温度設定を夏は28℃を目標に設定する ②熱中症の対策を呼びかける ③⑤科学部による日野市の生き物の生態調べ ⑥ゴミ減量ポスターへの応募 ⑦環境ボランティアの参加
大坂上中学校	①授業を通し、地球環境や気候変動、省エネや緑化の役割等を学習している ②授業や行事などを通し、熱中症体対策の徹底や WBGT を意識した行動、校庭側昇降口にミストシャワーを設置している ⑦フードバンクへの協力 ⑦コンタクトケースの回収 ⑦エコキャップ運動
平山中学校	①教科書の内容を学習している ②安全指導で台風への備えを学習している ⑦校内で裏紙を使用するなどリサイクル活動に取り組んでいる

この章では、高校の環境への取組状況を紹介いたします。環境への取組の実施状況についてアンケートを実施し、高校1校よりアンケートの回答が得られました。

学校名	取組内容
日野高校	○地域の清掃活動(部活動単位) ○科学部を中心に研究活動、生物の授業での活用 ○花壇の整備 ○紙の節約 ○グリーンカーテン ○太陽光発電 ○節電対策 ○ごみ減量 ○雨水利用 ○節水対策

【東京都立大学日野キャンパス】環境への取組

〒191-006 日野市旭が丘 6-6 (☎042-585-8606)

URL <https://www.sd.tmu.ac.jp/>**【取組内容】**

東京都立大学では、教育研究活動を通して、環境負荷の低減に努め、地球環境の未来や科学・技術の進歩へ積極的に貢献するため、エネルギーマネジメント(エコキャンパス・グリーンキャンパス)を推進しています。

日野キャンパスにおいても、エネルギーマネジメントワーキンググループ日野キャンパス部会を設置し、自然環境と人間環境の両立に配慮した取組みを行っています。

この取組みの一環として、学生主体による環境保全活動を促すことを目的として、各研究室の学生の中から「エコリーダー」を選出しています。「エコリーダー」は、研究室内での省エネルギーやエコ活動の啓蒙、事務局と各研究室の学生達の橋渡しの役割などを担当します。

日野キャンパスでは、エコリーダーを通じて、各部屋の空調管理やゴミの分別・削減に取り組み、教職員のみならず学生を含めたキャンパス全体として環境活動へ取り組んでいます。

2023 年度に東京都立大学日野キャンパスで取り組んだ主な事例を紹介します。

- ・ゴミ分別ルールの周知(エコリーダーを通じた分別方法の周知、職員による分別チェックなど)
- ・不要となった什器類や実験機器等の物品のキャンパス内リユース
- ・再資源化を目的にした缶・ビン・古紙類(雑誌・段ボール等)の売払い
- ・空調機器の効率的運用や適切な温度設定によるエネルギー使用量の削減
- ・カーボンオフセット自販機の設置

【明星大学】環境への取組

〒191-8506 日野市程久保 2-1-1 (☎042-591-5111)

URL <https://www.meisei-u.ac.jp/>

【取組内容】

明星大学は、省エネや環境保全活動とともに以下のような大学の緑と地域の緑をつなぐ活動を行っています。

1, 地域とのつながりに基づいた環境への取り組み

イオンモール多摩平の森でのビオトープでの活動

イオンモール多摩平の森に設置されたビオトープを活用し、「いきもの調査隊」と称して、バードコールづくりや、いきもの図鑑づくりを地域の子供たちを対象に実施した。

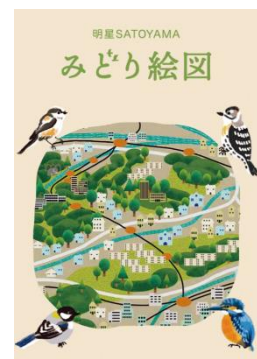


2, 学内の豊かな自然を利用した環境への取り組み

鳥からみる『みどりワークショップ+フィールドワーク』

明星大学内の生態系や明星大学周辺に生息する鳥について、理工学部の柳川亜季准教授と八王子・日野カワセミ会事務局長の佐藤哲郎氏から紹介があった後、明星大学のキャンパスと地域をつなぐ「むかし道」を散策し、自然観察のフィールドワークを行った。その後、デザイン学部の塩野 麻理教授による陶器の鳥の皿づくりと木工デザイナーの大沼 勇樹氏による木のバードハウスづくりのワークショップが行われた。イベントには子どもから大人まで幅広い世代の方が参加した。

ワークショップを通じて、下記の動画やチラシも作成した。



[みどり絵図](#)



ワークショップ動画



SATOYAMA さんぽ



多摩丘陵インタビュー

【会社名】 東京ガス(株)地域共創カンパニー 東京西支店 環境への取組

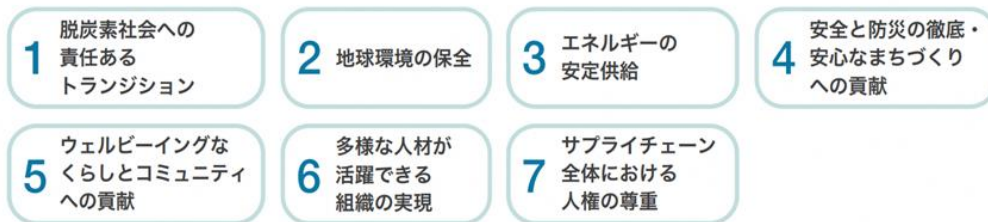
〒190-0012 立川市曙町 3-6-13 (042-526-6125)

東京ガスグループは、グループ経営理念「人によりそい、社会をささえ、未来をつむぐエネルギーになる。」を体現していくため、サステナビリティ上の重要課題を特定し、事業活動を通じて取り組んでいきます。これにより、社会的価値・経済的価値を両立して創出するとともに、持続可能な社会の実現および SDGs の達成に貢献していきます。

【東京ガスグループの創出する社会的価値】



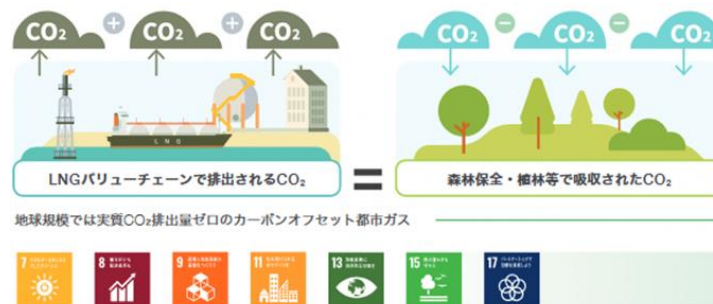
【サステナビリティ上の重要課題】



【取り組み事例】

1. 天然ガスの高度利用

石炭・石油等から天然ガスへの燃料転換、高効率機器の導入、スマートエネルギーネットワークの高度化等に加え、カーボンオフセット都市ガスの普及も進めています。カーボンオフセット都市ガスは「LNG による CO₂ 排出」を「新興国等の環境保全プロジェクトでの CO₂ 削減」で相殺した、実質 CO₂ 排出量ゼロのガス体エネルギーです。環境保全プロジェクトは現地での雇用創出や生物多様性保全にも貢献します。このように、低・脱炭素化の社会的コスト抑制をはじめ、多様な価値を創出しながら CO₂ ネット・ゼロへの移行をリードしています。



2. 再生可能エネルギー電源の拡大

2030年の再生可能エネルギー電源取扱い目標を600万kWとしています。国内・海外において太陽光、風力、バイオマス等の電源開発を行い、2024年3月末には約134.2万kWの取扱い量となりました。再生可能エネルギー電源の中でも、とりわけ遠浅な海域の少ない日本において導入ポテンシャルの大きい浮体式洋上風力は、2050年カーボンニュートラル実現のために必要不可欠な電源として、国内外にて各種取り組みを行っています。



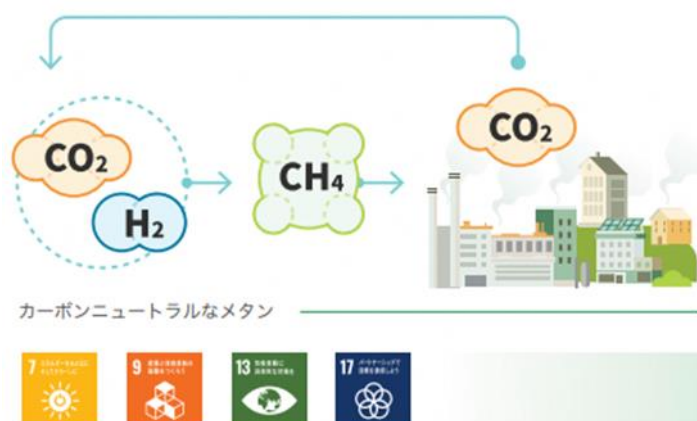
3. エネルギーセキュリティ

首都圏を中心に日本のエネルギー供給の一翼を担ってきた企業として、S+3E、すなわち安全、エネルギーの安定供給、経済効率性、環境への適合を事業の根底と考えています。安定的に安価で柔軟性のあるLNG調達に努める他、インフラの強靱化や、分散型エネルギーシステムの拡大等にも取り組んでいます。さらに、地震や風水害等の災害に対しても過去の経験等を踏まえ、より万全な対策を進化させてきました。今後も「決してエネルギーを止めてはならない」という使命感のもと、お客さまの安心・安全を支え続けています。



4. メタネーション技術開発

メタネーションとは、水素と CO₂ から、都市ガスの主成分であるメタンを合成する技術。メタネーションにより製造された e-メタンは CO₂ を原料に使うため、燃焼させても大気中の CO₂ は増えません。また、既存の都市ガスインフラを用いて供給が可能なので、経済的に CO₂ ネット・ゼロを目指すことができます。現在メタネーション技術の社会実装に向けて実証実験を行っており、今後は地域のカーボンニュートラル化に向けた地産地消モデルの検討や、サプライチェーンの構築等につなげていきます。



5. 学校教育支援活動

東京ガス(株)では、20 年以上にわたり学校教育支援活動に取り組んでいます。

社員による、エネルギーや環境に関する出前授業を実施する他、Web サイトには講義内容の動画も掲載し、2023 年度の受講児童生徒数は 14,366 人となり 2024 年 3 月末時点での累計受講児童生徒数は120万人以上となりました。また先生方を対象とした教員向け研修会も実施し、学習プランに活用できる情報を、施設見学やグループワークを通じて提供することで、未来を担う子どもたちにエネルギーと環境の大切さを伝えています。



Webサイト「おどろき! なるほど! ガスワールド」



【日野市と東京ガス(株)包括連携協定】



左から、東京ガス：岡村優子東京西支店長(当時)、日野市：大坪冬彦市長、東京ガス：小西雅子常務執行役員

1. カーボンニュートラルのまちづくりに向けた包括連携協定締結

日野市は、内閣府により東京都で初めて「SDGs 未来都市」に選定され、「プラスチック・スマート宣言」や「気候非常事態宣言」の発出、2023 年度は多摩動物公園と「環境・SDGs に関するパートナーシップ協定」を締結し、これまでも環境対策に向けた取組を推進してきました。

本協定は、そうした取組をつなげて具現化するものであり、地球温暖化の防止及び防災力の強化に貢献するとともに、地域の課題解決や更なる魅力創出等、地域の一層の発展を図り、持続可能なまちづくりの実現につなげてまいります。＜プレスリリースから抜粋＞

連携事項

1. カーボンニュートラルのまちづくりの実現に向けた取組のトータルコーディネートに関する事項
2. エネルギーの地産地消に関する事項
3. 個人、事業者、市所有施設への太陽光発電設備等の普及に関する事項
4. カーボンニュートラルエネルギーの調達や公共施設等への提供に関する事項
5. エネルギーデータの活用等によるエネルギーマネジメントに関する事項
6. 地域の防災機能強化等に関する事項
7. 学校等の地域における環境エネルギー教育や食育等を通じた啓発活動に関する事項
8. カーボンニュートラルのまちづくりに向けた取組における専門的人材の支援強化に関する事項
9. カーボンニュートラルのまちづくりに係る魅力等の情報発信に関する事項
10. その他住民へのサービス向上、カーボンニュートラルのまちづくりに関する事項

以上

【日野自動車株式会社】環境への取組

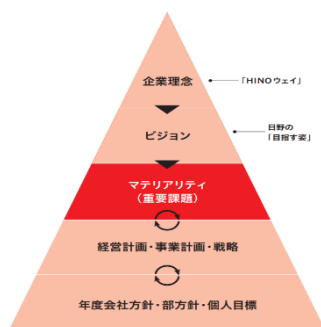
〒191-8660 日野市日野台3-1-1 (☎042-586-5565)

<https://www.hino.co.jp/corp/>

私たち日野グループは、トラックやバスを製造する商用車メーカーとして、「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」という「会社の使命」を掲げています。使命の実現に向けて、すべての基盤になる「HINO ウェイ」を策定するとともに、信頼回復の先にある日野の「目指す姿」を2023年4月に公表しました。さらに、日野の「目指す姿」を実現するにあたり、取り組むべき社会課題(8つのマテリアリティ)を洗い出し、そのなかの一つ「環境負荷低減とカーボンニュートラル社会への実現」に取り組んでいます。

マテリアリティの特定：[8つの取り組むべき社会課題](#)

マテリアリティの位置づけ



マテリアリティ

お客様・社会への 価値提供	環境負荷低減とカーボンニュートラル社会実現への貢献
	商品・サービスとデジタルデータ活用を通じ、人や物が最適に移動できる社会の実現
	事故のない安全な社会の実現
価値提供を 実現するための 経営基盤	企業活動における人権尊重
	「正しい仕事」を支えるガバナンス
	従業員尊重と多様な人材の活躍
	信頼回復に向けたステークホルダーとの誠実な対話
	強靱で持続可能なサプライチェーンの維持

1.環境中長期ビジョンの策定

持続可能な地球環境の実現に貢献するために、長期の環境ビジョン「日野環境チャレンジ 2050」を2017年に策定し、「環境負荷ゼロ」に向けたチャレンジを宣言しました。深刻化する地球温暖化、水不足、資源枯渇、自然破壊など、地球規模のさまざまな環境問題に対して、日野グループが成し遂げるべき6つの環境チャレンジを掲げ、取り組んでいます。



また2030年までの中間目標として「日野環境マイルストーン 2030」を設定し、カーボンニュートラルへの対応を足元の最重要課題として位置付け、実現に向けた取り組みを推進しています。

■環境取り組みプラン(グローバル目標)

日野環境チャレンジ2050	お客様・社会起点のあらゆる方策を追求	日野環境マイルストーン2030
 ライフサイクルCO ₂ ゼロ チャレンジ	脱炭素エネルギーの導入	2013年度比▲25%
 新車CO ₂ ゼロ チャレンジ	技術開発・普及促進 輸送効率化	2013年度比▲40%
 工場CO ₂ ゼロ チャレンジ	製造工程の脱炭素推進	2013年度比▲40%
 水環境インパクト最小化 チャレンジ	使用量低減 排水質管理の徹底	量：地域水リスクを考慮した節水・循環利用 質：水環境保全につながる厳しい自主基準での管理
 廃棄物ゼロ チャレンジ	資源循環の推進	2018年度比▲30%
 生物多様性インパクト最小化 チャレンジ	地域環境に応じた保全活動	自然と共生する工場づくり

長期の環境ビジョン(2050年)/中期の環境目標(2030年): [日野環境戦略](#)

2.カーボンニュートラルに向けた取り組み

「つくる・運ぶ・使う・廃棄する」全てのライフサイクルにおけるCO₂排出量を徹底的に削減するために、3つのチャレンジ(ライフサイクルCO₂ゼロ・新車CO₂ゼロ・工場CO₂ゼロ)を掲げて、推進しています。

1)商用車におけるカーボンニュートラル

商用車のライフサイクルにおいて走行時が最もCO₂の排出が多く、全体の約9割を占めます。当社グループでは、お客様のニーズに寄り添い“多様な”ソリューションを提供する「マルチパスウェイ」の方針で、走行時のCO₂排出低減を目指しています。国や地域によってエネルギー事情はさまざまであり、インフラ整備や充填設備への投資が十分にできない地域もあります。

したがって、電動車(BEV※1やFCEV※2)が全ての解決策にはなりえず、内燃機関車も重要な選択肢となります。そこで当社グループは、エンジンの燃費向上や、カーボンニュートラル燃料が使用できる内燃機関や水素エンジンの開発にも注力しています。一方、電動車に関しては、電池が主体となるBEVだけではなく、水素をエネルギーとしたFCEV、発電機を備えたPHEVなど、世界各地の法規制やお客様のニーズに対応可能な電動車の提供に取り組んでいます。

※1 BEV(Battery Electric Vehicle):バッテリーに充電して走る電動車

※2 FCEV(Fuel Cell eElectric Vehicle):燃料電池車

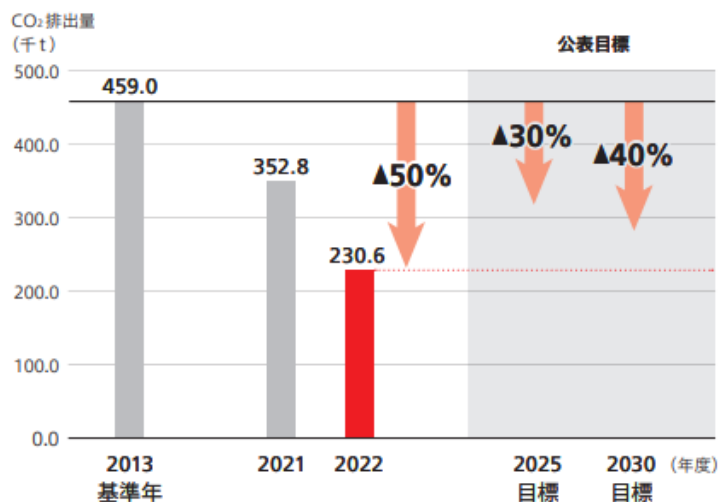
商用車におけるカーボンニュートラル: [日野自動車の取り組み](#)

2)工場CO₂ゼロに向けた取り組み

日野グループは、「革新技术の導入」「日常改善の推進」「再生可能エネルギーの導入」の3つを切り口に、削減活動を強化しています。2022年度の工場CO₂グローバル排出量は、2013年度と比較して、50%削減することができました。削減の方策として、自社国内工場では、37件の環境削減投資を行い、3,230t(概算)のCO₂排出量を削減しています。

さらに再生可能エネルギーの導入として、地域ごとの特性を活かした工場内発電設備設置や再生可能エネルギーを含む電力の調達を行っています。日野工場をはじめ、自社国内工場では、2022年から非化石証書を用いて購入電力が実質再生可能エネルギー100%となっており、排出量の低減に寄与しています。

工場CO₂グローバル排出量



<TCFD 提言に基づく情報開示>

当社グループは、気候変動を含む環境課題の解決を経営の最重要課題の一つに位置付けており、2022 年 12 月に気候関連財務情報開示タスクフォース(以下、TCFD)への賛同を表明しました。TCFD 提言に基づき、気候変動に関するシナリオを分析し、事業活動に与えるリスクと機会を抽出するとともに、取り組みについて開示しています。

詳細:[TCFD 提言に基づく情報開示](#)

3.水環境インパクト最小化に向けた取り組み

貴重な水資源を有効活用するために当社グループは、水使用の削減を図るとともに、各事業所から自然に還す際の排水について、管理と浄化の徹底に努めています。

・使う水は少なく

日野グループは、毎年、水リスクの評価を実施しています。地域の水環境に配慮するとともに、事業への影響度が高い拠点では、取水量の削減活動に注力しています。特に車両組立工場は、水を多量に使用する塗装工程があるため、徹底した削減活動に取り組んでいます。

・還す水はきれいに

水質に関しては、排出基準よりもさらに厳しい評価基準で管理し、河川などの流域レベルでのリスク評価を実施しています。また、定期的に外部機関による測定を行い排水の管理を徹底しています。

4.廃棄物ゼロに向けた取り組み

生産工程から発生する廃棄物は、改善活動による減容化や 3R(Reduce・Reuse・Recycle)によって排出量の削減に取り組んでいます。2022 年度の廃棄物グローバル排出量は、2018 年度排出量と比較して 40%削減しました。

<自動車リサイクルへの取り組み>

2005 年から施行された自動車リサイクル法(使用済自動車の再資源化等に関する法律)を遵守し、多くの関係事業者のご協力のもと、使用済みの車両から発生するシュレッダーダスト(以下 ASR)、エアバッグ類、フロン類の特定 3 品目の引き取りと適正なリサイクル処理を実施しています。2023 年度の ASR リサイクル率は 96%となり、法定基準 70%を達成しております。

また、より解体しやすい車両構造の検討やリサイクル可能材料の採用など、開発段階から環境に配慮した製品づくりを進め、循環型社会の形成と資源の有効活用に継続的に取り組んでいます。

自動車リサイクル法に基づく再資源化等の実績:[2023 年度実績](#)

5.生物多様性インパクト最小化に向けた取り組み

自然と共生する工場づくりとして、地域の特性に応じた「生物多様性の保全」と「学習の機会提供」を 2 本柱にした活動を推進しています。生態系の調査にあたっては地域の有識者や大学の専門家とも連携し、生態系の保全活動に取り組んでいます。

<2023 年の活動紹介>

茨城県環境管理協会監修の下、生態系調査を行っています。
2023 年 7 月には、環境学習会として、古河工場敷地内で「ライトトラップ観察会」を開催し、市内の小学生ら約 50 人が参加しました。クヌギにいるカブトムシやクワガタを捕まえ、有識者や従業員とともに特殊なライトに集まってくるさまざまな昆虫を観察しました。今後も、生き物の誘致が図れる場所として、環境整備を推進していきます。



エコクマ、エコアラ（裏表紙の絵）

地球温暖化ですんでいるところを追われ、東京都日野市にやってきたエコクマ。日野市の多摩動物園で生まれたエコアラ。地球温暖化に心を痛め、エコ活動を始めたよ。

2人で力を合わせてがんばるぞ。応援よろしくね！

日野市の環境を
守ろう！



令和5年度（2023年度）
日野市環境活動情報レポート

発行：令和6年（2024年） 月 日野市

編集：日野市環境共生部環境保全課

〒191-8686 東京都日野市神明 1-12-1

TEL 042-514-8294

URL <https://www.city.hino.lg.jp>

身近な生きものと共生できる環境を次世代につなごう！